

# 風の序曲

ABÉ Chirru

安倍 枕 流

タカシ (小学六年生)  
ユウコ (中学二年生)  
カズコ (タカシの母。理髪店々主)  
ケンイチ (タカシの同級生。いじめっ子)  
シンジ (タカシの同級生。ケンイチの子分)  
エミ (シンジの姉。中学二年生)  
ユミ (シンジの姉。中学二年生)  
シャンハイ・リル (休店中のオカマ・バーのマダム)  
マダム・トアロード (被災地のビルのオーナー)  
イクタスジ (トアロードの秘書)  
スマさん (サラリーマン)  
ウオザキさん (サラリーマン)  
シンカイチさん (サラリーマン)

客席のざわめき、微「かす」かに、海辺の音が漂う。そんな中、耳を澄ませば、遠く、鯨の鳴き声が聞こえてくる。  
ト、彼方に一条の光。ユウコの姿が浮かび上がる。

ユウコ クジラは、世界でいちばんおっきな動物です。姿はおさかなに似ておりますが、わたしたちとおなじ哺乳類で、あかちゃんをうみます。五千万年から六千万年のとおい昔、陸上で進化しながら、いきものゝ故郷である海中へと、帰ることをえらんだ哺乳類がおりました。それが、クジラの祖先です。なかでもおゝきいのは白長須鯨で、からだの長さは三〇メートルにもなります。中くらいのクジラである座頭鯨は、歌をうたうことで有名です。その歌の意味を解説しようと、たくさんのひとが研究しておりますが、まだほとんどが、謎のまゝなのです……

再び、鯨の鳴き声。  
風の音強く。

ト、ユウコの姿が見えなくなり、舞台の幕の前に、二人のサラリマンがやってくる。二人とも革靴こそ履いているが、まだ寝間着姿で、鞆や新聞なんかを抱えている。その寝間着や鞆には泥が付いてたりする。

シンカイチさん しかし、困りましたねえ（靴を脱ごうとする）

ウオザキさん いや、ホンマですわ

シンカイチさん もう、いきなりでしたでしょ？ こんだけ持ち出すのがや

つとこさで

ウオザキさん 私なんて、まず思っただのんが「会社行かな」ですわ

シンカイチさん あ、それ、私も

ウオザキさん ほんで、周章「あわ」てゝ掴んだんが、鞆だけ

シンカイチさん いや、ホンマ、私なんか、天狗の面

ウオザキさん 何で天狗の面やねん

シンカイチさん 咄嗟でしたから

ウオザキさん にしても、こんな恰好じゃ（ト、自分のパジャマ姿を眺め）、

会社行けまへんがな

シンカイチさん ホンマ、お面被ったまゝじゃねえ……（ト、天狗の面を被

つてみせる）

ウオザキさん いや、被らんでえゝがな

シンカイチさん あー……（ト、天狗の面をとる）

ウオザキさん 何、いちいち被ってんねんな

シンカイチさん ま、それ以前に、電車もバスも通ってませんけどね

ウオザキさん ホンマ、困りましたなあ  
シンカイチさん ホンマにねえ（再び靴を脱ごうとする）  
ウオザキさん 何してまんねんな  
シンカイチさん 一寸、靴を脱ごうとね……あなた、ないんですか、靴脱いだこと……？

ウオザキさん 全く、ほんだから云うとつたやろ、靴は毎日脱いどけて……どっかで聞いたような台詞やな……？

ト、そこへ、スマさんが現れる。先の二人とは異なり、ちゃんとスーツを着ているが、裸足である。

スマさん どうも……

ウオザキさん・シンカイチさん あ、どうも……

ウオザキさん あなた、それ……（ト、スマさんの足を指す）

スマさん あ、これ……

シンカイチさん 何にも履かずに……？

スマさん いえ、あることはあるんですけど……

ウオザキさん あ、スリッパでしょ

シンカイチさん あー、判りますよ、私らだって、上は寝間着ですから

スマさん いやあ、それが、咄嗟のことでしたから……

ウオザキさん けど、何か履いとかんと危ないでっせ

シンカイチさん そうそう

スマさん いえね、履いてはきたんですがね……（ト、革靴の左足分を出し

てみせる）

ウオザキさん ほな、何で……？

スマさん 実は、どこで間違ったのか、他人のを……（ト、ハイヒールの右

足分を出してみせる）

ウオザキさん そら、あきまへんな

シンカイチさん あ、それならありますよ

ウオザキさん お、用意がえゝねえ

スマさん いやあ、助かります

シンカイチさん ハイ（ト、ハイヒールの左足分を出してみせる）

ウオザキさん 何でハイヒールやねん

シンカイチさん いや、革靴もあるんですけどね……（ト、自分が脱いだ左

側の靴を出してみせる）

スマさん でも、それじゃ、あなたの方が……

シンカイチさん あゝ、大丈夫です（ト、別の靴を出して、履く）

ウオザキさん （履いた靴を指して）そっち貸したらえゝんとちや

うんかいな

シンカイチさん いや、最初に間違えて履いとつたんですよ。こっちで合う

てるんですわ

ウオザキさん やゝこしやつちやな……

スマさん いやあ、すいません、いゝんですか……？

シンカイチさん 困ったときは、お互い様ですから

ウオザキさん しかし、どうせこないなるんやったら、通帳と印鑑とか枕元

に置いてくべきでしたなあ

スマさん 鞆の中に、財布とかカードとか這入「はい」ってなかったんです  
か  
ウオザキさん いやあ、それがね、何でか知らんけど、ラムネの空き壘……

(ト、鞆から出してみせる)

スマさん 喉乾きますもんね、通勤中って

ウオザキさん いや、空の壘入れとかへんやろ、それやったら……

シンカイチさん ほな、鳴らしてみるとか…… (ト、壘を受け取って、口を

吹く真似)

スマさん あゝ、よう娘に吹いたりしました、昔……

ウオザキさん 吹かへんて、通勤中は

シンカイチさん まあ、ようあることですよ (ト、吹いてみせる)

ウオザキさん あれへんあれへん。大体、鳴ってへんがな、それ……

：

スマさん コツが要るんですよ、一寸……

シンカイチさん (壘をウオザキさんに返して) 私なんざ、ほら――

ウオザキさん 天狗の面なら、さつき見たで

シンカイチさん 便箋と封筒 (ト、出してみせる)

ウオザキさん 会社行くのに、それは要らんやろ

スマさん あゝ、通勤中って、書きたくなりますよね、手紙

ウオザキさん そんなん、なるか？

シンカイチさん ついでに、ヴァインセント・ヴァン・ゴッホ (ト、ゴッホの

「ひまわり」を出してみせる)

ウオザキさん それは要らん、ゼツタイ要らん

スマさん まあ、時には洒落も必要ですよ

ウオザキさん こないな時に、洒落云うとる場合かいな

シンカイチさん (スマさんに) そちらは何を？

スマさん いや、恥ずかしながら、何にも……

ウオザキさん 何にも？ そら、これから大変でしょう

スマさん まあ、一応、財布だけは――

ト、上着のポケットから財布を出してみせるが、そのとき、一葉の写真が落ちる。

シンカイチさん (写真を拾って) おや、お嬢さんですか

スマさん やあ、お恥ずかしい……

ウオザキさん ほな、心配でしょ？ ご家族は大丈夫やったんです

か？

スマさん えゝ、おかげさまで、娘は……

シンカイチさん え、じゃあ、奥さんは……

スマさん いや、実は、ずいぶん前に、別れてまして……

ウオザキさん はあ、そうですか……

シンカイチさん じゃあ、今、お嬢さん一人きりなんだ

スマさん えゝ、ですから、早よ帰ったろうとは思ってるんですがね……

にしても、このまゝじゃ、どないもなりませんねえ

ウオザキさん どうかで、自転車でも借りましょか？

シンカイチさん いや、貸してくれへんでしょう、こんなときじゃ……  
スマさん 歩きますか  
ウオザキさん そやな、取り敢えず……  
シンカイチさん そうしましよ……  
スマさん じゃ、行きましょか……

去ってゆく三人。

11

三人が去ると同時に、幕が開く。  
山間の盆地にある地方都市の鄙「ひな」びた商店街。中央にナガノ理髪店。下手側に煙草屋。上手側は店仕舞いしたバー。いずれの店も二階に手摺りの付いた引き窓がある。理髪店の前には、植木鉢と古びた椅子が置かれている。上手から、学校帰りのタカシがぶらぶらとやって来る。  
タカシは、理髪店の二階の窓にちらりと眼をやってから、理髪店のドアを開けて中へ這入る。

タカシ たゞいま……！  
カズコの声 お帰り……。こらタカシ、ちゃんと手を洗いなさい……！  
タカシの声 いま洗うよ……

ト、上手から、ケンイチとシンジの二人が、何やら話しながらやってくる。

ケンイチ おい、シンジ  
シンジ ん……？  
ケンイチ (声を潜めて) オレよ、昨日、おっぱい触っちゃってよ……  
シンジ 触ったツスカ……！  
ケンイチ そうよ、何か、こう、蒸しパンみたいな、メロンパンみたいな感じでさア……  
シンジ おいしそうツス……！  
ケンイチ へっへっへ……  
シンジ ひっひっひ……  
ケンイチ ま、夢ん中だけどな  
シンジ (無感動に) あゝ……  
ケンイチ オマエ、触ったことないだろ、おっぱいなんか？  
シンジ ……あるツス  
ケンイチ (驚愕) えーッ、あるのかよーッ？ いつッ、どこでッ？  
シンジ 姉ちゃんたちのツス……  
ケンイチ あゝ、あの姉ちゃんたちのか……  
シンジ ちよつと、手があたったツス……  
ケンイチ で、イチオー聞いたくけどよ、どんなだった？  
シンジ 柔らかかゝったツス……

ケンイチ ゴクリ

シンジ でも、拳固は堅かったツス……（ト、頬を押さえる）

ケンイチ （大仰「おゝぎょう」に項突「うなづ」いて）あの姉ちゃんたち  
じゃなあ……

シンジ おかげで、歯医者さん行って、歯ぬく手間が省けたツス……

ケンイチ けど、いっぺん触ってみたいよな、おっぱい……

シンジ （項突いて）姉ちゃん以外のツス……

ケンイチ （我に返って）ゼンコウジ先生もダメだぞ

シンジ 皺々ツス

ケンイチ オカヤとかウエダとかコモロとかのもダメだ

シンジ ペったんこツス

ケンイチ イ、ダのはちよっと考えてもいゝかなあ……

シンジ イ、ダのはいゝんだ？ クッククツクツ……

ケンイチ 笑うなッ！

シンジ （項突いて）んツス……

ケンイチ やっぱ……（ト、シンジの顔を見る）

シンジ んゝ……（ト、ケンイチの顔を見る）

ケンイチ タカシの奴……

シンジ （項突く）んーツス……

ケンイチ おい、シンジ、タカシ、呼べよ

シンジ おっけーツス

シンジ、理髪店の前まで行き、息を大きく吸い込んでタカシを呼

ぼうとする。が、突然、店仕舞いしたバーの扉が開いて、シヤン  
ハイ・リルが出てきて、タイミングを狂わされる。

リル まあ、ちびっこ紳士たち、何うろろうろしてんの？

ケンイチ 男女にや関係ねえよ

リル （いきなりケンイチの耳を振り上げ）「ニューハーフ」って仰有い

ケンイチ にゅ、にゅ、乳頭……

リル （二層強く振り上げ）「ニューハーフ」ツ

ケンイチ にゅーはーふ……

リル （ケンイチを解放して）もう一寸おっきくなったら、いらっしやいね。

可愛がってあげるわよ（ケンイチとシンジに流し目くれて、店に引っ込む）

ケンイチ （耳をさすりながら）チッキショー、ひでえ莫迦力だぜ

……

シンジ 強いツス

ケンイチ まったく、オカマのくせによ

シンジ 姉ちゃんたちと戦わせたいツス

ケンイチ 「ニューハーフ」って面かい、あんまりひでえんで、店潰れちま

ったくせに

シンジ （人差し指を口に当て）ケンちゃん、聞こえたら、また出てくるツ

ス……

ケンイチ そんなことよか、タカシだよ

シンジ そのとおりツス

ケンイチ 呼び出すんだ



タカシ (シンジに) やめとけよ、悪いこと云わないから  
ケンイチ (タカシに) おい、タカシ、しらばっくれてんじやねーぞ  
タカシ だから、なんなんだよ

ケンイチ (二階を示して) オマエんちのユウコさんという中学生のことだよ！

シンジ ユウコさんッス

タカシ あゝ、あいつね……(ト、二階の窓を見やる)

ケンイチ 二階の窓から、いつも外眺めながら、なんか歌ってるだろ。あれ、なに歌ってたんだ？

タカシ 知らねーよ

ケンイチ 毎日、窓、開けっ放しで、寒くないのか？

タカシ 知らねーって

ケンイチ ところで、オマエ、見たことあるだろ？

タカシ なにを

ケンイチ その……なんだ……パンツとか……

シンジ パンツッス！

タカシ ねーよ、そんなもん

ケンイチ あの女、オマエんち来てから、どんだけ経つ？

タカシ (想い出しながら) 一昨年「おとゝし」の二月からだから、ちょうど二年、か……

ケンイチ そんだけ一緒に暮らしてんだぞ、絶対見たことあんだろ？

シンジ パンツッス！

タカシ ねーってば

ケンイチ 嘘つけ

シンジ パンツッス！

ケンイチ (シンジを殴って) うるせーんだよ！ 大声でパンツパンツ云うんじやねえ！

タカシ ケンイチ、そんなに、あいつのパンツ、見たいのかよ

ケンイチ そ、そ、そんなわけねーだろ

タカシ ほんとか？

ケンイチ オレなんて、昨日、おっぱい、触ったんだもんね

シンジ おっぱいッス

タカシ ほんとか？

ケンイチ 夢の中でだけど

シンジ (項突いて) 夢の中でッス

タカシ 莫ッ迦じゃねーの

ケンイチ やっぱ、隠してんだろ！

シンジ 隠してるッス！

タカシ だから、なにをだよ

ケンイチ 二年も一緒に暮らしてんだぞ、一遍ぐらい、触ったことあるだろ！

(詰め寄る)

シンジ あるだろッス！(詰め寄る)

タカシ あつたらどうだってんだよ

ケンイチ あーッ、やっぱあるんだーッ

シンジ あるッスー！

タカシ 喚くんじやねーよッ

ケンイチ だってよー……  
シンジ だってッスー……  
タカシ ないに決まってるだろ  
ケンイチ ない……？  
シンジ ないッス……？  
タカシ (再び、二階の窓を見やって) オレ、興味ないもん、あんなやつ……  
……  
ケンイチ 嘘つけー  
シンジ 嘘つけッスー  
タカシ オマエだって知ってるだろ、女なんて、陰険で、いゝ子ぶりっこで、  
弱虫で……  
シンジ ウチの姉ちゃんたちは強いッス！  
ケンイチ オマエんとこの姉ちゃんたちは女のうちに這入んねーよ  
タカシ 判るだろ？ オカヤとかウエダとかコモロとか見てたら……  
……  
ケンイチ そりゃそうだけだよ……  
タカシ とにかく、口だって、ほとんどきいたことないね  
ケンイチ ほんとか？  
シンジ ほんとッスか？  
タカシ (口惜しげに) だって、あいつ、二年も一緒に居るのに、オレのこ  
と無視してやがんだ……  
ケンイチ ほゝう  
シンジ ほゝうッス

タカシ それで、たまに喋ったと思ったら、憎たらしいことばっか云いやが  
る……  
ケンイチ へっへっへー……  
シンジ ひっひっひー……  
タカシ なんだよ、いきなり  
ケンイチ やっぱ、オマエじゃなあ……  
シンジ オマエじゃッス……  
ケンイチ よーし、そーゆーことなら、話は早い  
シンジ 早いッス  
タカシ だから、一体なんなんだよ  
ケンイチ 彼女は、オレのものだ！  
シンジ オレのものッス！  
ケンイチ (シンジを殴って) バカ、オマエのじゃねーだろ！  
シンジ すまないッス……  
ケンイチ 今日から、彼女に対する交渉権は、オレが獲得した  
シンジ 交渉権ッス  
タカシ なんだよ、それ  
ケンイチ ラヴラヴな関係になるんだよ  
シンジ 関係ッス  
タカシ 勝手になれば……(店に戻ろうとする)  
ケンイチ (引き留めて) まあ、待てって  
タカシ オレ、イソガシの  
ケンイチ そう云わずに

タカシ 云つとくけどな、オレ、あいつとは、全然、口きかないから  
ケンイチ いーんだよ、オレのこと、一寸だけ伝えといてくれるだけで……  
タカシ なんて？

ケンイチ 男らしくて、ちょっと危険な匂いのする、大人っぽい小学生が居  
るって……

タカシ (呆れて) おっさんぽい、だろ (戻ろうとする)

ケンイチ (止めて) まあ待ってって

タカシ しつこいなあ

ケンイチ 判った。オレも男だ。グダグダ云うのは性に合わない

タカシ もう充分云ってるよ

ケンイチ 一つだけ聞いてくれ

タカシ (うんざりしながら) なんだよ

ケンイチ 彼女の好きなものを教えてくれ

シンジ 好きなものツス

タカシ 知らねえよ

ケンイチ 手掛かりくらい、あんだろ？

シンジ 手掛かりツス

タカシ そういや、クジラのぬいぐるみとか、クジラの絵のついた筆箱とか、

けっこうクジラグッズを持つてるみたいだけど……

ケンイチ クジラか……

シンジ クジラツスか……

タカシ じゃあな！ (急いで、店に戻る)

ケンイチ (二階の窓を見ながら) 待ってるよ、ユウコ——

シンジ (同じく二階の窓を見て) 待ってるツス  
ケンイチ キミのシャーワセは、オレの手で……!!  
シンジ 手でツス……!!

颯「さ」つと去る二人。

1—2

ト、二階の窓が開き、ユウコが姿を現す。ユウコは、Paradisの「シ  
チリア舞曲」のメロディーを口ずさみながら、窓枠に凭  
「もた」れ掛かり、柵越しに街の向こうに連なる山並み  
ををぼんやりと眺め始める。

店のドアが開いて、タカシが出てくる。

タカシはユウコの方を盗み見るが、不意にユウコが下を見たので、  
周章てゝ眼を逸らす。

ユウコ (再び、山並みを眺めつゝ) あんた……

タカシ (ギョツとして、二階を見上げる) ……

ユウコ 春から中学生なんやる……

タカシ なんだよ、急に……

ユウコ えゝの？ 遊んでばっかしで……

タカシ 自分だって、ちっとも学校行ってないくせに……  
ユウコ 学校行くのんと、勉強するんは別や  
タカシ 勉強してるとこなんて、見たことないぞ  
ユウコ (タカシの方を見て) あたしの部屋覗いてんの？  
タカシ そ、そんなことあるかい！  
ユウコ 小学生のくせに……  
タカシ うるさいな！ ねーよ、覗いたことなんか！  
ユウコ (身を乗り出して) 教えたげよつか……？  
タカシ (吃驚して) な、なにをだよ……？  
ユウコ 阿呆やな、勉強に決まってるやろ、勉強に……  
タカシ いゝよ、別に……  
ユウコ これでも、前の学校じゃ、勉強できる子やってんで  
タカシ そんなにサボってばつかしいて、どうすんだよ……  
ユウコ サボるゆうたかて、一年ときは、まあまあ行ってたやん  
タカシ 二年になって、ほとんど行ってないくせに  
ユウコ こんな田舎の学校、一年くらい行かへんかて、へいちゃらや  
タカシ 英語とか、判ってんのかよ……  
ユウコ あんたのお母さんが教えてくれはるもん……  
タカシ 四月から三年だろ。受験、どうすんだよ  
ユウコ どないしよつかなあ……  
タカシ ……  
ユウコ こゝの店手伝いながら、定時制でも通おつかなあ……  
タカシ 本気かよ

ユウコ あたしが居ったら、目障りなん……？  
タカシ 別に――  
ユウコ はよ出ていってほしいて、思てる……？  
タカシ オレ、関係ねーもん……。母さんの客だし……  
ユウコ せやね……。タカシ君とは、関係ない居候やもんね……  
タカシ ……  
ユウコ ……  
タカシ 学校、行けよな、偶には……  
ユウコ なに？ 心配してくれてんのん？  
タカシ 違うよ……！  
ユウコ じゃ、なんで……？  
タカシ かっこ悪いんだよ、ウチにそんな奴が居ると……  
ユウコ なんや、がっかりやわ…… (再び、Paradisを口ずさみだす)  
タカシ 小母さんから、手紙、来ないな、最近……  
ユウコ (口ずさみ続ける)  
タカシ 元気なんだろ、小母さん……  
ユウコ (口ずさみ続ける)  
タカシ 誰か、いじめる奴でも居るのか……？  
ユウコ 中学行ってもいじめっ子が居るんやないかて、心配なん？  
タカシ ちがわあ。同じ中学行って、サボりの奴のこと、色々訊かれるのが  
イヤなんだよ……！  
ユウコ あら、名誉なことやんか

ト、店から、カズコが出てくる。

カズコ ユウコちゃん、一寸、お使い行つて来てくれる……？  
ユウコ はい……（下へ降りてくる）  
カズコ あんた、また、ユウコちゃんと喧嘩して……  
タカシ あつちから口出してきたんだよ  
カズコ ほんとにもう、商店街中に聞こえてるよ  
タカシ オレ、恥ずかしいよ、あんな不良がウチに居て……  
ユウコ （降りてきて）晩御飯、なんかリクエストは？  
カズコ （ユウコにお金を渡しながら）おまかせ  
ユウコ （タカシに）タカシ君、なんか食べたいもんある？  
タカシ 別に……  
ユウコ （くすりと咲「わら」って）じゃ、行つて来ます（下手へ去る）  
カズコ （見送つて）タカシ……  
タカシ ん……？  
カズコ （煙草とライターをポケットから出して、一服しつゝ）お母さんね、ユウコちゃんが、学校行きたくない気持ち、判るのよ……  
タカシ オレ、判んない……  
カズコ あんたも、お父さん居ないから、判るでしょ……  
タカシ いじめ……？  
カズコ （首を振る）……

タカシ おかしいよ、最初はちゃんと行つたのに、今頃なつて行かなくなるなんて……  
カズコ 最初はね、頑張つちやうのよ……  
タカシ 頑張る……？  
カズコ 頑張つちやうのよ、そんなとき……  
タカシ 誰が……？  
カズコ 皆ーんな……  
タカシ みんな……  
カズコ 六年前はね、タカシだつて頑張つちやつてたんだから……  
タカシ オレも……？  
カズコ そう。それに、あんたがけじゃなくなつて……（そのときを思い返して、煙草をふかす）  
タカシ それで……？  
カズコ え……？  
タカシ 最初だけなんだろう、頑張んの……  
カズコ そのうち、だんだんね……  
タカシ だんだん、なんだよ？  
カズコ ユウコちゃんね、絵を描くのが好きなのよ……  
タカシ （意外）絵を……？  
カズコ ちつとも描いてないもんね……  
タカシ うん……  
カズコ ウチへ来て半年くらいのに、描いたのよね、絵を……  
タカシ ……

カズコ 海に浮かんだクジラの絵……  
タカシ クジラ……  
カズコ ユウコちゃん、クジラ、好きなのよ……  
タカシ そうみたいだね……  
カズコ でね、その絵、真っ黒の海に、茶色いクジラなのよ……  
タカシ 真っ黒の海に、茶色いクジラ……  
カズコ それから、描いてないんじゃないかなあ、絵って……  
タカシ それから……  
カズコ (ポケットから携帯灰皿を取り出して、煙草を放り込む) ま、要するにね——  
タカシ なんだよ……？  
カズコ あんたも家の手伝いぐらいしなさいってこと！ (ト、タカシの背中をどやしつけて、店に引込む)  
タカシ (咳き込みながら) キッターネー、不意打ちしやがって……！  
手伝いなんか、してやるもんか！ (店に向かってアツカンペーをする、上手に駆け去る)

1—3

入れ違いに、下手から、派手な衣裳のマダム・トアロードと地味な姿「なり」のイクタスジが現れる。

イクタスジ ナガノ理髪店……。社長、この店でっせ  
マダム・トアロード まあ、えらいきつたない店やこと  
イクタスジ こら、結構、困ってまっしやるな  
マダム・トアロード こゝなら、安い金でも、うんて云いそうね  
イクタスジ ほうでんな。(資料を取り出して眺めながら) えー、調査によりますと、世帯主はナガノ・カズコ、三十八歳、六年前に亭主と死別しております。こら、交通事故の被害者でんな  
マダム・トアロード あーら、気の毒。でも、お金儲けに情けは無用よ  
イクタスジ 子供は、小学校六年の息子が一人だけ  
マダム・トアロード あの娘「こ」との関係は？  
イクタスジ えッ、そら、まだでしょう……  
マダム・トアロード ……？  
イクタスジ 小学生で、関係は……  
マダム・トアロード アホッ、ナガノ・カズコとの関係に決まってるやろッ  
イクタスジ 元々、あつちで美容師の修行しとつたようすな。で、そのとき、あの娘の母親と親友やったと、ま、そういう訳ですわ  
マダム・トアロード 母親の方は、まだ、当分、娘を引き取れそうにないのんね？  
イクタスジ 当分は無理でっしやる  
マダム・トアロード そんなら、も一度、おさらいしとくわよ  
イクタスジ はいな  
マダム・トアロード あたしは？

イクタスジ キョウマチスジ興産の社長

マダム・トアロード 名前よ、名前

イクタスジ マダム・トアロード

マダム・トアロード こゝに居候させてもろてんのは？

イクタスジ マダム・トアロードの御祐筆の妹の御嫁に行った先きの御つか

さんの甥の娘

マダム・トアロード あんた、それ、「吾輩は猫である」そのまゝやないの

イクタスジ 実は好きなんですわ、夏目漱石……

マダム・トアロード 今どき「御祐筆」なんて云って、誰が判んのも

イクタスジ ほな、「秘書」でつか？ 私のことでんな

マダム・トアロード それじゃ、あんたの遠縁になっちゃやうやないの

イクタスジ え、ほんまでつか？

マダム・トアロード あたしの遠縁なんやから

イクタスジ 社長の？

マダム・トアロード 決まってるでしょ

イクタスジ 私、社長と親戚で？

マダム・トアロード 違うわよ。あたしが、こゝに居る娘と親戚なの

イクタスジ 私とは？

マダム・トアロード あんたとは関係ないの。いゝ？ こゝん家「ち」の人

は、あの娘の母親の親友で、あたしは、今まで会ったことはないんやけど、

あの娘の父親の遠縁なの

イクタスジ ——ほな、私は誰でしょう

マダム・トアロード アホッ。誰がこないなとこでダイマル・ラケットの漫

才やれ云うとんねん

イクタスジ いえ、一寸混乱してしもて……

マダム・トアロード 一寸やないやんか。ほんま、厭んなっちゃやうわね

イクタスジ ほれで、どないしたら？

マダム・トアロード 「御祐筆」をカットしちやいなさい

イクタスジ マダム・トアロードの妹のお嫁に行った先のお母さんの甥の娘、

でんな

マダム・トアロード それでえゝわ

イクタスジ はあ

マダム・トアロード じゃ、宿へ帰るわよ

イクタスジ え、帰っちゃうんで？

マダム・トアロード あんた、まだ判ってないの？ いつかて云う

てるでしょ、下見百遍て（下手に去る）

イクタスジ （後を追いながら）社長、けど、そんな目立つ恰好で

何遍も来たら、ごっつう怪しまれまんがな……！

入れ替わりに、下手から出てくるケンイチとシンジ。

シンジ 姉ちゃんたちから、変なこと聞いたッス

ケンイチ ほっとけほっとけ、どーせ駅前に新しいハンバーガー屋ができた

とか、安売りの化粧品屋ができたとか、ファミレスができたとか、下らねえことに決まったら

シンジ　なんか、地上げの話らしいツス

ケンイチ　地上げ？

シンジ　そッス。この商店街のツス

ケンイチ　（周囲を見渡して）ボロだもんなあ、この商店街……

シンジ　一大オミズメントバクとかいうもんができるそうツス

ケンイチ　オミズメントバク？　なんだそりや？

シンジ　そんな感じの言葉ツス

ケンイチ　しかし、だとすると、この界限にも地上げ屋が……

シンジ　あゝ、そーなったら、オレたち奴隷になっちゃうツスか！（ト、頭

を抱える）

ケンイチ　オマエ、なんか勘違いしてるよ、それ

シンジ　（元気になって）なら安心ツス

ケンイチ　まあいゝや、そんなこと。それよか、タカシの奴だよ

シンジ　タカシの奴ツス

ケンイチ　判ってるな。今度は、タカシを味方に付けるんだぞ

シンジ　判ってるツス

ケンイチ　こういうの、ナントカって云うんだ、漢字の熟語で

シンジ　習った奴ツスか？

ケンイチ　そうだよ

シンジ　知らないツス

ケンイチ　オマエには期待してないよ

シンジ　（安心して）良かったツス

ケンイチ　そうそう、カイジューだよ、カイジュー

シンジ　えー、それはなんか変ツス

ケンイチ　（自信なくして）やっぱ、違ったかなあ……

シンジ　だって、カイジューするって、なんか暴れるみたいツス

ケンイチ　まあいゝや、そんなこと。で、作戦だが――

シンジ　……？

ケンイチ　ひたすらお願いする

シンジ　それ、作戦じゃないツス

ケンイチ　うるせーな

シンジ　なんか恰好悪いツスー

ケンイチ　これも作戦なんだよ。ナントカって言う諺もあるだろ？

えーと、なんだっけ……？　ナントカをナントカと欲すればまず

ナントカって……

シンジ　知らないツス……

ケンイチ　……期待してねーよ、オマエにや……

ところへ、お使いから帰ってくるユウコ。

ケンイチとシンジ、大いに狼狽「うろた」えて、お互いに相手の背後に隠れようとしてグルグル回ったりしている。

ユウコ　（怪訝そうに二人を見て）なにしてんのん……？

ケンイチ　（シンジに押し出され）あ、あの……

シンジ (小声で教えようと) ケンちゃんケンちゃん……  
ケンイチ (小声で) なんだよ……  
シンジ アノクタラサンミヤクサンボダイツス……  
ケンイチ バカやるッ  
ユウコ え……？  
ケンイチ い、いえ、こつちのことで……  
ユウコ あゝ、タカシ君のお友だち……？  
ケンイチ (礼) スワ・ケンイチです……  
シンジ (同じく礼) シオジリ・シンジツス……  
ユウコ タカシ君、居れへんよ、今……  
ケンイチ そ、そーですか……  
ユウコ 駅前のゲーセンちやうかな……  
ケンイチ ゲ、ゲ、下賤なところですね……  
シンジ 下賤ツス……  
ユウコ おもろい子オらやね……  
ケンイチ それほども……  
シンジ それほどもツス……  
ユウコ (シンジに) キミ……  
シンジ オレ、いや、ボクツスか……？  
ユウコ そう。雌の反対は？  
シンジ 雄ツス  
ユウコ 竈「かまど」につくのは？  
シンジ 煤ツス

ユウコ 鳥の埒「ねぐら」は？  
シンジ 巢ツス  
ケンイチ (シンジに) オマエ、遊ばれてんだよ  
シンジ (頬を染めて) 嬉しいツス……  
ケンイチ (悔しい) ……  
ユウコ じゃあね……  
ケンイチ は、はいッ……  
ユウコ (店に這入る) たゞいまあ……  
ケンイチ ……(余韻に浸っている)  
シンジ ケンちゃん……  
ケンイチ ……  
シンジ ケンちゃんてばツス  
ケンイチ いゝ……。実にいゝ……  
シンジ だいじよぶツスか？  
ケンイチ (シンジを掴んで揺さぶりながら) おい、シンジ、春ん  
なったら、オレ、ユウコさんと同じ学校だぞ……！！  
シンジ オレもツス……  
ケンイチ (シンジを放り出して) オマエはどーでもいーんだよ  
シンジ ……(淋しい)  
ケンイチ 問題は、タカシの奴も、同じ学校になるってことだ……  
シンジ 問題ツス……

ところへ、帰ってくるタカシ。

タカシ なんだよ、オマエら、また来たの……？  
ケンイチ いゝよな、港街……

タカシ は？

ケンイチ ハイカラだ……

タカシ オマエの言葉遣いって、つくづくおっさん臭いな

ケンイチ 懂れるよな、こんな地方都市に育った小学生としては……

タカシ どうしたんだよ、一体……

ケンイチ オマエだって、見てみたいだろ、海……？

タカシ オレは風邪引いて行けなかったけど、オマエ、夏に臨海学校行った

じゃないか

ケンイチ あんな北向きの海じゃなくて、南向きの海が見たいんだ

よ

タカシ 日本海が聞いたたら、気を悪くするぞ

ケンイチ その南との通路が、あるわけだ……

タカシ そうかいそうかい

ケンイチ しかも、すてきな通路が……

タカシ ドラえもんに頼めよ

ケンイチ タカシ、一生のお願いだ

シンジ お願いッス

タカシ ほら来た

ケンイチ 頼む、ユウコさんに紹介してくれ（頭を下げる）

シンジ してくれッス（同じく頭を下げる）

タカシ （面倒臭そうに）いゝよ、判ったよ……

ケンイチ いゝのか……？

シンジ いゝッスか……？

タカシ あゝ

ケンイチ （タカシの手を取って）おゝ、タカシ君、キミは天使だ神様だ……！

……！

シンジ （これ亦、タカシの手を取って）地藏、観音、弥勒ッス……！！

タカシ でも、知り合いになったからって、ハイカラな港街までついてこ

ねーぜ

ケンイチ ま、それは追々……

タカシ （二階の窓に向かつて、石を投げる）

ユウコ （二階の窓から顔を出し）なんやのん……？ 珍しやん、

タカシ 君から呼んでくれるやなんて……

タカシ こいつらが紹介してくれって

ケンイチ （緊張）……

シンジ （同じく緊張）……

ユウコ あゝ、タカシ君のお友だちね

タカシ なんだ、知ってんのか

ユウコ さつき会うたもん。ケンちゃんに、シンちゃんやったね……？

ケンイチ ケ、ケンちゃん……

シンジ シンちゃん……

ケンイチ う、嬉しー……！！（ト、駆け出して行く）

シンジ は、恥ずかしッスー……！！（後を追って駆け出して行く）

ユウコ 足、速いなあ……。もう、葉屋さんのとこや……  
タカシ ……なんだよ、あいつら……  
ユウコ 仲えゝのん……？  
タカシ 全然……  
ユウコ ふーん……  
タカシ 学校行きや、あんな知り合いぐらい、たくさん出来るよ……  
ユウコ ……  
タカシ ……  
ユウコ 友だち、多いん……？  
タカシ 別に……  
ユウコ あたしな、結構多かってんで……  
タカシ みんな子分だったんじゃないのか……  
ユウコ アホ……  
タカシ 貫禄充分だよ……  
ユウコ けど、もう、二年も経つんや……  
タカシ ……  
ユウコ みんな、忘れてもうてるやろなあ、あたしのこと……  
タカシ ……  
ユウコ あたしな、だんだん忘れてんねん……  
タカシ ……  
ユウコ 友だちの顔……  
タカシ ……  
ユウコ あんなに仲よかったのにな……

タカシ すぐ想い出すって……  
ユウコ お父さんの顔もな、もう写真見いひんかったら、想い出されへんね  
ん……  
タカシ ……  
ユウコ あのと、あたしを庇ぼてくれたのにな……  
タカシ ……  
ユウコ ひどい娘やなあ……  
タカシ ……  
ユウコ 忘れられるのんも、罰「バチ」かも知れへんな……  
タカシ だって……  
ユウコ せやからな、もう、友だち、作らんとこかな、て……  
タカシ そんなこと……  
ユウコ こっちで作ったかて、また、向こうへ帰ったら、忘れられ  
るやん……  
タカシ ないよ……  
ユウコ (ふつと咲って) いつ帰れんのか、判らへんけどな……  
タカシ オレ……  
ユウコ なんか、あの街であったことって、みーんな、夢やってみたいやわ  
……  
タカシ オレは……  
ユウコ (Paradisを口ずさみ出す)  
タカシ ……

ユウコ (Paradisを口ずさみ続ける)

風。

ユウコ あ…… (耳を澄ます素振り)  
タカシ え……?  
ユウコ (首を振り) なんでもない……  
タカシ どうしたんだよ……  
ユウコ 云うたらバカにするやろ……  
タカシ 云わなきや判んないよ……  
ユウコ バカにしたら、承知せえへんで……  
タカシ 判ったよ……  
ユウコ ……笑わんとつてや、今、ちよつと、クジラの声が……  
タカシ クジラ?  
ユウコ ほら、もう、バカにしてるやん……!  
タカシ そんなことないつてば  
ユウコ もう、えゝよ……!  
タカシ ……  
ユウコ ……  
タカシ してないよ、バカになんか……  
ユウコ ……うん  
タカシ クジラの声……?

ユウコ あ、うん……クジラだな、歌が……  
タカシ クジラ、歌うの……?  
ユウコ そう……歌うねん……クジラ……  
タカシ クジラが……

風。

その音に混じって、微かにクジラの声が聞こえるような気がする。  
ユウコとタカシ、声が聞こえたかのように、彼方を見やる。  
幕が閉じる。

2

スマさん・ウオザキさん・シンカイチさんがやってくる。

ウオザキさん いやあ、しゃあけど、どっち行つても、大変なことぢやなあ  
……  
シンカイチさん けど、何か、一寸マシなつた氣い、しませんか……?  
ウオザキさん ホンマホンマ  
シンカイチさん JRも通りましたしねえ  
スマさん ほんとほんと  
ウオザキさん 下水も通つたしなあ  
シンカイチさん さようさよう

スマさん 貴闘力も通りましたしねえ

ウオザキさん・シンカイチさん いや、それは通らん

スマさん 地元の筈やねんけどなあ……

ウオザキさん さあて、そろそろ帰るか

シンカイチさん あら、そんな突然……

スマさん そうですよ、もう一寸えゝやないですか

ウオザキさん せやかて、あんまし長い間帰らんかったら、忘れられてまう

かも知れへんがな

スマさん そんな、一寸やそつとで忘れられる筈ありませんよ

ウオザキさん せやろか……

シンカイチさん でも、私みたいに、忘れっぽい奴も居てますからねえ

スマさん 何でそんな不安を煽るようなこと云うの

ウオザキさん 矢つ張り？

シンカイチさん いや、単身赴任とか、出張のせいだね、なかなか

子供と一緒に居られへんでしょ？ で、この前なんか、娘の名前

忘れちゃいましたね……

ウオザキさん あんた、酷「ひど」い人やねえ……

シンカイチさん 女房に蹴り入れられましたよ、こんな風に、ハ、ハ……

スマさん ハ、ハ、やないでしょ、あーた……

シンカイチさん まあ、忘れても、想い出しやえゝんですよ

ウオザキさん 成る程

スマさん 想い出したんですか

シンカイチさん それが、あなた、なっかなか想い出せなくて、ハ、ハ……

：

スマさん だから、ハ、ハ、やないでしょーが……

シンカイチさん 会社が悪いんですよ、会社が

スマさん 会社が……？

シンカイチさん なんせ、この六年間で、家から会社通つたの、一年ありま

せんからね

ウオザキさん そら酷い

シンカイチさん それで、漸く単身赴任から戻つたと思つたら、これでしょ？

折角の家族団欒がワヤですわ……

ウオザキさん あんた、それで、娘さんの名前は？

シンカイチさん それが、忘れたまんまで……

スマさん あんた鬼だよ！

ウオザキさん まあまあ、想い出したらえゝんやし……

シンカイチさん それが想い出されへんのですわ

ウオザキさん アカンがな、それ

スマさん あなた、あんだだけ色々持ち歩いとつて、保険証とか、家族の名前

判るもん、持つてはらへんのですか？

シンカイチさん いやあ、保険証までは……

ウオザキさん そらそやろ、咄嗟やつたさかいなあ……

シンカイチさん そうですわ、ホンマ。戸籍謄本やったら持つとんですがね

え

スマさん それでえゝんや！

ウオザキさん 何で戸籍謄本なんか……

シンカイチさん (戸籍謄本を出してみて) あゝ！ 名前が書いてある……  
スマさん 当たり前や！  
シンカイチさん けど、読み仮名が書いてない……  
ウオザキさん まあ、良かった良かった  
シンカイチさん (謄本を仕舞いながら) いやホンマ、憎むべきは儲け第一主義の会社ですわ  
ウオザキさん ロンリがえらい飛躍してへんか  
スマさん 私は判りますけどね  
ウオザキさん あんたら、実は伸えゝやろ  
シンカイチさん (スマさんに) お嬢さんの名前、忘れてはりませんか  
スマさん 勿論ですよ。別れた女房の名前だって大丈夫です  
シンカイチさん 立ち入ったことをうかどうようですが、何でまた……？  
スマさん いやね、よう考えたら、何でやったんでしようなあ……  
ウオザキさん 忘れてしもたんですかいな  
スマさん 何か、あの頃のこととて、夢の中のことみたいな気がしますわ……  
ウオザキさん・シンカイチさん 夢の中のねえ……  
スマさん 忘れる筈、ないんですけどねえ、色々ありましたから……  
ウオザキさん まあ、何かきっかけでもあったら、想い出すんとちゃいまつか……  
か……  
スマさん (ウオザキさんに) ところで、あなたのお宅は如何なんですか？  
ウオザキさん 私は大丈夫でっけどな、女房の奴が忘れっぽい奴でして……  
シンカイチさん 奥さんが……？

ウオザキさん ほらもう、直「じ」き、忘れまんねや  
シンカイチさん 忘れてしまいたいことが多いとちやいますか  
スマさん 忘れてしまいたいことや  
シンカイチさん どうしようもない淋しさに  
スマさん 包まれたときに男は酒を呑むんですよ  
ウオザキさん いや、女房、女やがな  
シンカイチさん お子さんは……？  
ウオザキさん これがまた、女房に輪を掛けて忘れっぽい奴でして……  
スマさん ほゝう……  
ウオザキさん ほらもう酷いもんでっせ、学校の成績なんて。肝腎のこと、みな忘れよりまんねや  
シンカイチさん でも、今度のこた、忘れへんでしょ  
ウオザキさん どうでっしやるなあ、危ないんとちやいまつか。何せ、自分の親の名前、忘れることありまつかからな  
シンカイチさん そら酷いわ  
スマさん あんたが云うな！  
ウオザキさん いや、私もね、会社人間で奴でしてね…… (シンカイチさんをちらりと見て) あんた程やないけど、残業やら休日出勤やらで、なかなか家族団欒で訳にはいかんかったんですわ……  
シンカイチさん そうでしたか……  
ウオザキさん まあ、忘れられるのんも、無理おまへんわ……  
スマさん まあ、忘れたら、想い出せばえゝんですよ……  
ウオザキさん そうでしたな……

シンカイチさん けど、忘れられたんを、思い出させるゆうのんは、どないしたらえゝんでしようね……

スマさん それは……

ウオザキさん そや

スマさん は……？

ウオザキさん また憶えて貰う、ゆうのんはどないや？

スマさん また憶えて貰う、て……

シンカイチさん あゝ、えゝですねえ、それ

スマさん いや、あんたも……

ウオザキさん 結構えゝ考えやろ？

シンカイチさん それやったら、これでバッチシですわ（ト、紙袋から、怪しげな器械を取り出す）

スマさん 何ですか、それ？

シンカイチさん 知りませんか？ 「睡眠記憶装置」ですよ

ウオザキさん これが、かの有名な……

スマさん いや、こんなもんで……

シンカイチさん これで、寝てはる御家族に、「お父さんの名前はコレコレや」ゆうて吹き込むですわ

ウオザキさん うーん、こら、えゝ……

シンカイチさん でしょ？

ウオザキさん 早速やって貰えまつか

シンカイチさん はいな

スマさん 一寸待って下さいよ……

シンカイチさん 何ですか……？

スマさん これ、顔を憶えさすには、どうやって……？

シンカイチさん・ウオザキさん ……

スマさん ……

シンカイチさん あ、あっちの方、行ってみましょ

スマさん・ウオザキさん あ、ちよ、一寸……

「睡眠記憶装置」をしまい込むと、そゝくさと立ち去るシンカイチさん。周章てゝ後を追うスマさんとウオザキさん。

3—1

幕が開くと、ケンイチとシンジが上手からやってくる。

シンジは図鑑を抱え、ラジカセを下げている。

シンジ ケンちゃんケンちゃんツス……

ケンイチ （振り返りもせず）なんだよ

シンジ これ、貸し出し手続きしてないツスよ……

ケンイチ いゝんだよ、そんな本。誰も借りやしないから、こっそり返しと

きや判んねーよ

シンジ でも、見つかったらどうするツスカ

ケンイチ （振り返って）オマエが叱られるんだよ

シンジ それは厭ッス……！  
ケンイチ 当然だろ、オマエ、ちゃんと手続きしなかったんだから  
シンジ あゝ、当然ッスね……（項垂れる）

ところへ、下手から、制服姿のエミとユミがやってくる。

ケンイチ げ、オマエの姉ちゃんたちだ……！！

シンジ （周章でゝ）ケンちゃん、パスッス！（ト、凶鑑をケンイチに渡す）

ケンイチ こら、オマエが持つんだよ！（ト、シンジに押し返す）

シンジ （押し返して）でも、ケンちゃん、それないと、クジラのこと判  
ないッスよ！

ケンイチ （再び押し返して）そんなの、オマエが読んで教えてく  
れりやいゝんだよ！

エミ・ユミ シンジ！

シンジ は、はいッス！（直立不動）

エミ なにやってんだよ、こんなところで？

ユミ なにやってんの、こんなところで？

シンジ ちょ、ちよっとッス……

エミ ちよっと、なに？

ユミ ちよっと、なになの？

シンジ 凶鑑を……

エミ どうして凶鑑なんて持つてるの！

シンジ おかみさーん、ズカンですよ……

エミ お黙リッ

シンジ （縫るような眼で）ケンちゃあん……

ケンイチ か、借りたんだよ

シンジ 借りたッス……

ユミ ちよっと、エミちゃん、いくらシンジでも、凶鑑ぐらい読むんじやな  
いの？

エミ ユミちゃんは甘いッ。（シンジの首っ玉捉えて）こいつが凶鑑読むな  
んて、考えられる？

ユミ うーん、それは、ちよっとね……

エミ シンジ、なに企んでんの！ 白状しなさい！（シンジを振り回す）

ケンイチ シンジ、ラジカセ落とすんじゃないぞ

シンジ け、ケンちゃんが、その家の……

ケンイチ あ、莫迦野郎……！！

エミ ケンイチ君がどうしたの！

ユミ こゝって、あの、ほら……

エミ ナガノ理髪店で、タカシ君ぢやない

ユミ そうだけど、もう一人、あたしらの学年の……

エミ あゝ、あの、二学期から、全然来なくなった……

ユミ そう。スマさんだっけ……

エミ はゝあん。シンジ！

シンジ ケンちゃんがッスー！

ケンイチ （周章でゝシンジの口を押さえ）あ、あの、オレ、ボクが、シン  
ジ君に、クジラのこと調べてくれて頼んだんです……！！

ユミ ほら、ケンイチ君が、頼んだって……  
エミ (シンジを抛擲「ほうてき」して) ケンイチ君……  
ケンイチ は、はい……  
エミ あんたが頼んだの？ (近付いて行く)  
ケンイチ (後じさりつゝ) そ、そうです……  
ユミ けど、どつちかかっていうと、ケンイチ君も、凶鑑読むタイプじゃないわよねえ……  
エミ クジラのことなんか調べて、ドーするわけ？  
ユミ 学校の宿題かなんかじゃないの……？  
ケンイチ い、いえ、そうゆう訳では……  
エミ 商業捕鯨は禁止されてんだよ  
ケンイチ いや、捕鯨をするわけじゃ……  
エミ じゃあ、なんなの！  
ユミ エミちゃん、食い意地張りすぎだよ、それ……  
エミ ユミちゃん、クジラなんて、食べないで、他にどうすんのよッ？

途端に流れる「上海リル」。ト、バーの扉が開いて、シャンハイ・リルが現れる。

リル クジラはねえ、色んな役に立つのさ……！  
エミ なによ、あんた  
リル この商店街きつての美形、シャンハイ・リルを知らないのかい？ (ト、

見得を切る)

エミ (ユミに) 知ってる？  
ユミ 知んなあい……  
リル 失敬なちびっ子たちだね  
エミ ちびっ子たちとはなによ！  
ユミ そうよそうよ！  
シンジ ヤバイッス。姉ちゃんたちを、怒らせたッス……  
ケンイチ 構うもんか、この隙に脱出だ……  
シンジ でも、このオカマ、クジラのこと、詳しくそうッスよ  
ケンイチ うーむ……  
エミ 中学二年なんて、もう、大人なんだからね (ト、悩殺ポーズ)  
シンジ うわあ……ッス  
ユミ あたしらを嘗「な」めてもらっちゃ、困るわね (ト、同じく悩殺ポーズ)  
ケンイチ ブルセラだあ……ちっちゃいけど……  
リル 何だってんだい、あんた達？  
ユミ ユミだよ (ポーズ)  
エミ エミだぜ (ポーズ)  
ユミ シオジリ家の双子姉妹  
エミ 「ふたりっ子」って、呼ばれてるわ  
リル 何が「ふたりっ子」だよ、エミにユミじゃ、ザ・ピーナッツじゃないのさ  
ケンイチ おゝ、たしかに……

エミ うるさいわね、じゃあなに、ハナ肇にお粥運べってゆうの？  
リル 運べるもんなら、運んでごらん！  
エミ じゃあ、まず、ハナ肇連れてきてよ！  
ユミ エミちゃんエミちゃん、もう死んじゃってるから……  
リル 口の減らないちびっ子だね。人の店の前で、ぎゃあぎゃあ騒ぐんじゃないよ！

ユミ これ、あなたのお店なの……？  
エミ あゝ、あんたね、オカマ・バーのマダムって  
リル 「ニューハーフ・ラウンジ」と仰有い。ウチは、ソフトなサーヴィスが売り物なんだからね！

ユミ けど、あんたんとこ、潰れたんではよ……？

リル 五月蠅「うるさ」いね、暫「しば」し充電してるだけだよ

エミ 永遠の充電でしょ

リル 何だって！

エミ 知ってるでしょ、この商店街、一大アミューズメント・パークに生まれ変わる計画があんの

ケンイチ (シンジに) なにが「オミズメントバク」だよ

シンジ 「アミューズメント・パーク」ってなにッスか？

ケンイチ (きつぱり) それは知らない

ユミ お店とか、ゲーセンとか、レストランとか集まったところよ

ケンイチ・シンジ そいつあ、いゝ……！

リル 一寸、勝手にウチの店、立ち退かせんじやないわよ

エミ イカゞワシイ店は立ち退きよ

ユミ まあまあ、エミちゃん、オカマだって、アトラクションくらいには使えるんじゃないの

リル お黙リッ

ト、理髪店からタカシが出てくる。

タカシ おい、ケンイチ、人ん家「ち」の前でうるさいぞ……

エミ・ユミ まあ、タカシ君じゃなーい

タカシ あ、シンジのお姉さんたち…… (店に逃げようとする)

エミ あーら、そんなに急いで戻んなくてもいいーじやなーい

ユミ 偶にはさ、昔みたいに、一緒に遊びましようよ

エミ なにしようかしら？

ユミ おまゝごと？

エミ お医者さんごっこ？

ユミ ゲンセンカン主人ごっこ？

エミ 三島由紀夫割腹事件ごっこ？

タカシ シンジい……

シンジ 成仏してくれッス…… (合掌)

リル ちよいと、ちびっ子ピーナッツ、タカシ君は将来のあたしの恋人予備

軍なんだから、手出さないうで頂戴

エミ・ユミ なに云ってんのさ！

ケンイチ タカシって、女運悪いよな……

シンジ (重々しく項突いて) きつと、先祖の供養がなつてないッス……

ケンイチ あのー、リルさん……

リル 何よッ

ケンイチ まあまあ、お平らに……

ユミ 相変わらず爺臭い言葉遣いねえ……

ケンイチ リルさん、クジラにはお詳しいんで……？

リル これでも、勉強好きなのよ

ケンイチ クジラが役に立つとは？

リル 欧米ってのは、十九世紀までは、油と云やあ、クジラから採った鯨油が普通だった。ペリーが開国を求めて浦賀に来たのだから、捕鯨船団の補給基地の確保と、捕鯨域の拡大のためだったのさ

一同 おゝ……

ケンイチ それから？

リル えっへん……それだけ

一同 それだけ？

リル いゝじゃないのさ、クジラは役に立つてことが判ったんだから

エミ 役に立つって、一個だけじゃないの

リル あと、髭がゼンマイになるとか……

ケンイチ なーんだ、そんなら、オレの方が詳しいぜ

シンジ 鯨博士ツス

ユミ ケンイチ君、なに知ってんの……？

ケンイチ たとえば、クジラは、クジラ目に属す哺乳類ですが、このクジラ目は、ヒゲクジラ亜目とハクジラ亜目に下位区分され、ハクジラ亜目に属

するクジラのうち、体長三〜四メートルのものをイルカと呼んでいる、とか

一同 ほゝお……

ケンイチ 雄の座頭鯨は、歌をうたうので有名であるが、このクジラの歌は、

繁殖期の恋の歌で、雌を惹き付ける効果があると云われている、とか

一同 ふーむ……

ケンイチ ちゃんとCD借りて、ダビングもしてきたぜ。(シンジに)おい、ラジカセ

シンジ はいッス(ト、ラジカセを出す)

ケンイチ これが、クジラの歌です……

ト、ケンイチ、ラジカセの再生ボタンを押す。途端に流れ出す、シンジの演歌。

ケンイチ なんだ、こりゃ！

シンジ ……すまないッス……。それ、オレの練習テープッス……

タカシ 練習って……

ケンイチ こいつ、ジャニーズ系アイドル目指してんだよ

タカシ ジャニーズ系が、どうして演歌を……

ケンイチ 踊りも練習してんだ

シンジ ダンスッス

ケンイチ 見せてやれよ

シンジ (踊ってみせる)

タカシ 踊れてないよ、それ……  
エミ 相変わらず、ツメの甘いヤツね  
ユミ 画竜点睛「がりようてんせい」を缺「か」してるわよね  
ケンイチ シンジツ、オマエのせいだぞ、もいっぺん、録音してこい！  
シンジ 判ったツス……（ラジカセと図鑑を抱えて上手に走り去る）  
ケンイチ あ、図鑑は置いてけよ……！（後を追って去る）  
リル ふん、莫迦々々しいったらありやしない……！（店に引っ込む）  
ユミ ねえ、タカシ君、タカシ君ちのスマさん、元気にしてんの……？  
タカシ え……  
エミ あたしら、あの子と、同級生なんだ  
タカシ そうですか……  
ユミ ま、二年生終わるまでに、いっぺんぐらい、学校おいでって、  
云つといてよね  
エミ いじめる奴が居たら、このシオジリ姉妹が許さないからって  
タカシ はい……  
エミ・ユミ じゃあね……（ト、上手に去る）  
タカシ ……（店に消える）

### 3—2

夕暮れ。  
タカシが店から出てきて、前の檻樓「ぼろ」椅子に腰掛ける。

ト、バーから、シャンハイ・リルが鼻歌なんか歌いながら現れる。

リル 少年、何ぼおっとしてんの  
タカシ 別に……  
リル 何？ 恋患い？ だったら、この経験豊富なシャンハイ・リルさんに  
任せてよ。辛い想い出も嬉しい想い出も、この夜空の星の数ほど持つてる  
わ……

タカシ まだ、一番星しか出てないよ……

リル 命短し、恋せよ少年、*La vie est trop courte.*（ラ・ヴィ・エ・トロ・ク  
ルトウ）、人生は短いのよ、踊りなさい、歌いなさい！

タカシ シンジに云ってやってよ、それ……

リル（男言葉になって）まあ、タカシ、何シヨボくれてんだよ。

こゝは一つ、男同士、玉でも見せ合って話し合おうじゃないか！（タ  
カシの肩に手を掛ける）

タカシ 極端だよ、変わり方が……

リル あのね、クジラってね、五千万年から六千万年も昔に、海に帰った哺乳  
類の子孫なのよ……

タカシ それが……

リル 全ての生物は、海から生まれたのは知ってる……？

タカシ なんか、聞いたことはあるような気もするけど……

リル だから、人間もね、とっても疲れると、あゝ、海に帰りたいなあ、つ  
て思うのよ……

タカシ ふうん……  
リル でね、そのとき、クジラに成ってみたいとか、クジラっていゝなあとか、思うわけ……  
タカシ へえ……  
リル クジラ好きな人って結構多いらしいんだけど、それは、クジラが「帰った」生き物だからなんだってさ……  
タカシ 「帰った」……  
リル 心のお医者さんが雑誌に書いてたのよ……  
タカシ リルさん、よく知ってるね……  
リル これでもね、昔、とっても辛い目に遭ったの。そのとき、色々勉強したのよ……  
タカシ ふうん……  
リル ね、聞いてくれる？ あれは、忘れもしない、十二年前の冬の或る日のことだったわ——  
タカシ あ、オレ、宿題やんなくっちゃ……！ じゃ、有り難う、リルさん（ト、店に飛び込む）  
リル もう、一寸ぐらい聞いてくれたっていゝじゃないの、あたしの悲恋物語……ふん！（ト、これも自分の店に引込む）

3—3

夜。

二階の窓に、ユウコの姿が現れる。ユウコはクラシックを口ずさみつゝ、ぼんやりと夜空を眺めている。  
再び、店から出てくるタカシ。手に息を吐き掛けながら、二階を見やる。

ユウコ （夜空眺めたまゝ）オリオン座が綺麗やね……  
タカシ 風邪ひくよ……  
ユウコ やっぱし、こっちは星がようけ見えるわ……  
タカシ うん……  
ユウコ タカシ君、鯨座で、知ってる……？  
タカシ 名前だけは……  
ユウコ （指差して）あそこにオリオン座、見えてるやろ……？  
タカシ うん……  
ユウコ あの三ツ星の左上が、M七八星雲、ウルトラの星や。それから、右下に行つて、牡牛座の下、あの山の際あたりにM七七星雲、その下の赤っぽい星が、ミラ、鯨座のオミクロン星。あのへん一帯が、鯨座やねんで……  
タカシ へえ……  
ユウコ 鯨ゆうたかて、海の化けもん、やな、尻尾が、蛇みたいに、くるりんとなつて……  
タカシ 見たことあるよ、その絵……  
ユウコ アンドロメダゆうお姫さまを襲おうとして、ペルセウスゆうヒーローにやつつけられるんやけどな、アンドロメダのお父さんとお母さんまで

入れて、なんですか、みいんな星座になつてんねん……  
タカシ ふうん……  
ユウコ クジラにかけて、悪い奴が居んねんな……  
タカシ ユウコさん……  
ユウコ (初めて名を呼ばれたので吃驚して) え……？  
タカシ クジラって……  
ユウコ なに……？  
タカシ 陸で進化した哺乳類が、海に戻っていった奴なんだから……  
ユウコ そうやけど……  
タカシ だから、クジラは、生き物のふるさとへ帰ろうとした動物なんだ……  
ユウコ ……  
ユウコ へえ……。タカシ君が考えたん……？  
タカシ リルさんが教えてくれた……  
ユウコ ふうん……  
タカシ それで、人間も、ときどきクジラが羨ましくなつて、クジラみたいに帰りたいって思うんだって……  
ユウコ 帰りたい、か……  
タカシ あ……  
ユウコ なんやのん……？  
タカシ 海の話、してよ……  
ユウコ 海の話……？  
タカシ 海とクジラの話……  
ユウコ なんやの、急に……

タカシ この辺り、海、ないだろ。だから、オレ、生まれてから、まだ、自分の眼で見たことないんだ、海……  
ユウコ へえ、そうなん……  
タカシ 六年てさ、夏に臨海学校があるんだけど、オレ、風邪引いていけなかつたから……  
ユウコ すっごい、残念そうやったもんな……  
タカシ だから、海の話、してくれよ……！  
ユウコ 急に云われたかて……  
タカシ 好きなんだろ、クジラ……？  
ユウコ 好きやけど……  
タカシ 海は……？  
ユウコ 海も好きやけど……  
タカシ 海は、海はなに色……？  
ユウコ アホやな、決まってるやんか、海は——  
タカシ 海は……？  
ユウコ 海はなあ——  
タカシ ……青？  
ユウコ 青も、青、真っ青や……  
タカシ ユウコさんの家から見えた、海……？  
ユウコ 朝起きたらな、窓あけるやろ……そしたら、きらきらしてんねん……  
タカシ ……  
ユウコ 海……？  
タカシ (項突いて) ずうっと、広がってな、向こうの方に、島がかす

んで見えんの……

タカシ へえ……

ユウコ そんなで、船とかいっぱい浮かんどって……

タカシ 大きいの……？

ユウコ 大きいのか、小さいのか、いろいろ……

タカシ いろいろかあ……

ユウコ 海辺に降りたら、海からな、風が、びゅうって、吹いてくんねんよ……

……

タカシ 気持ちい……？

ユウコ あたりまえやんか。最高やわ……

タカシ クジラは居ないんだろ……？

ユウコ (咲って) そらくジラは居れへんよ……

タカシ じゃあ……

ユウコ 海辺にな、おっきい水族館があんねんけど、そこにクジラ

の骨が飾ってあんねん……

タカシ 大きい……？

ユウコ そらもう、すっごくおっきいで……。で、小さいころな、まだお母

さんも居ってんけど、お父さんもいっしょに水族館行って、それから浜辺

に行つて、ラムネとか飲みながら、散歩してな……

タカシ ……

ユウコ 海見ながら、お父さんにきいてん、クジラ居らへんのかつて……。

そしたら、お父さん、空になったラムネの壘、こう、口んところから覗かせ

て、中のビー玉に影うつってるやろ、それがクジラや、て云うねんで……

タカシ ビー玉に……？

ユウコ そや。ほんで、覗いたら、ちゃんと青い壘の光の中に、黒い影

が映つとってん……。ま、今から考えたら、あれ、ビー玉の中のゴミやつ

たんやろけどな……

タカシ へえ……

ユウコ それから、お父さん、ラムネの壘、こんなふうにかいて、ぼおーつ

て鳴らして、クジラの鳴き声や、つて……。ほんま、壘の中に居「お」る

んやつて信じてもおた、クジラ……。

タカシ ふゝゝ……

ユウコ できる、タカシ君、壘、吹いて鳴らすの……？

タカシ うん……

ユウコ ようお父さんにねだったわ、クジラの声、聞かせてくれっ

て、そんなときから……

タカシ ラムネ壘で……？

ユウコ そう、ラムネ壘で……

タカシ 信じてたの、ずっと……？

ユウコ 小学校はいるまで……

タカシ 教えられたんだ、学校で……

ユウコ (首を振って) うゝん、お父さんが教えてくれてん、ほんまは海に

居「お」るんやつて、クジラ……

タカシ やっぱり、本当のこと、教えとかなくちゃって……？

ユウコ ……窓辺にな、置いとつてん、ラムネの空き壘。そしたら、窓あい

とつたときがあつて、急に、壘が、ぼおーって、鳴ってん……。あたし、

もう、びっくりしてもうてな、お父さん、居れへんけど、クジラ、鳴いてるって……

タカシ 風が吹いたんだ、海からの……

ユウコ そんなでな、壘、手にとって覗こうと思てんけど——

タカシ ……

ユウコ あわてとったせいで、落としてもうて、窓の外に……

タカシ ……割れたの、壘……？

ユウコ うん……。そんで、中のクジラ、どうなったんやろうって、急いで見にいったけど、どこにも居れへんかって……

タカシ お母さんとかは……？

ユウコ ……（首を振る）

タカシ そう……

ユウコ そんなでな、クジラ居れへんようになったって、泣いとったら、

お父さん帰ってきて、ほんまは海に——遠い海に居るんやって、

せやから、泣かんでもえゝって……

タカシ ……

ユウコ いつか、会いにゆこな、って、お父さん、約束してくれてんけど……

タカシ ……

ユウコ 結局、会われへんまゝやったわ、どっちも……

タカシ ……

ユウコ もう、今、会うたかて、初めて会うみたいなもんやろな……

タカシ ……

ユウコ そういえば、お父さん、云うたことあるわ、まあ、顔もそうやけど、

性格かて変わってしもてるかもしれへんし、一から始めたらえゝって、仲

良うする気いさえあつたら、なんとかなるやろ、って……

タカシ ……

ユウコ でな、今でも、風吹くと、なんか起こるんやないやろかって、ちょ

っとドキドキすんねん……

タカシ ……

ユウコ オシマイ……

タカシ ……

ユウコ ……

タカシ 憶えてる……

ユウコ え……？

タカシ 忘れてない……

ユウコ ……うん

タカシ だから……

ユウコ だから……？

タカシ 絵、描いてよ……

ユウコ え……？

タカシ 海とクジラの、絵……

ユウコ （黙ってしまう）……

タカシ ねえ……！

ユウコ あかん……

タカシ ユウコさん……！

ユウコ あかんねん……！

ユウコ、ぴしやりと窓をしめてしまう。呆然と立ち尽くすタカシ。

タカシ ユウコ、さん……

幕が閉じる。

#### 4

スマさん・ウオザキさん・シンカイチさんがやってくる。  
夜である。

スマさん 意外に見えませんでしたよね……

シンカイチさん 何がですか……？

スマさん いや、星がね……

ウオザキさん 都会じゃ見えへんで、そら

スマさん 電気止まりましたでしょ……

ウオザキさん けど、あんまり暗らへんかったで

シンカイチさん 直ぐ電気点いたし

ウオザキさん 火事もあったし

シンカイチさん 私なんか、未だに何か熱いですよ、この辺……（ト、背中

を示す）

ウオザキさん その炎の画家ゴッホの所為「せい」とちやうんかい

スマさん アツイですよねえ、ゴッホって

シンカイチさん いや、あんとき、助けに来てくれた人が居てましてねえ……

……まあ、結局やっただんですけど、無事やっただんやろか、あの人……？

スマさん あゝ、そうでしたか……

ウオザキさん 大体、都会の空は汚れとるから、停電なったかて、見えへん

で、星

シンカイチさん （拳を振り上げて）憎むべきは、儲け第一主義！

ウオザキさん 何やねんな、急に

スマさん 環境の悪化を顧「かえり」みない、企業の利潤優先主義に怒って

はるんですよえ

シンカイチさん （項垂れて）オレは貧乏やつちゅうのに……

スマさん 訂正。単に、自分と較べて羨「うらや」んではるだけで

すわ……

ウオザキさん 難儀なやつちやな……

シンカイチさん 然し、ビールが恋しい季節になりましたねえ……

ウオザキさん いきなりビールの話かい……

スマさん （空を見上げて）もう、秋の星座ですしねえ……

シンカイチさん え、夏やないんですか……

スマさん （腕時計を見て）三時半ですから……

ウオザキさん 夏の星座がちゃんと見えんのは、真夜中ぐらいまでやがな……

……

シンカイチさん あゝ、そう云や、星は動くんでしたねえ……  
スマさん ほら、東の空には、もう、クジラ座が昇ってきてますよ……  
ウオザキさん クジラ座なんちゆうのがあんねんな……  
スマさん 地味な星座ですけどね……  
シンカイチさん あゝ、オバケ食いたい……！  
ウオザキさん あんた、欲望に忠実な人やなあ、尊敬するわ……  
シンカイチさん いや、それほどでも……  
スマさん 一晩で、春の終わりから、冬の初めくらいまでの星が見えますよ……

ウオザキさん こっちが動かんでも、向こうが回ってくれるんやね……  
シンカイチさん 回る回るうよ、舞台は回る……新橋演舞場……  
ウオザキさん (無視して) 一晩が、半年ちゆうわけや……  
スマさん 一ト月で十五年か……。すると、二ヶ月で三十年ですよ……  
ウオザキさん いや、それぐらい計算できるけどな……  
シンカイチさん どうです？ キューつと、こう、一杯、生ビールなんぞを……？  
ウオザキさん えゝけど、呑むとこあんのかいな、こないな時間に……？  
シンカイチさん あるんですよ、近くに、行きつけのところが……  
スマさん こんな時間も……？  
シンカイチさん いやあ、そこもやられましたね……  
スマさん あゝ……成る程……  
ウオザキさん そうか……ほな、行こか……

シンカイチさん 行きましょ行きましょ……  
スマさん クジラ、あるんですか、そこ……？  
シンカイチさん ありませんよ、クジラなんて……  
ウオザキさん そら、そやろ……  
シンカイチさん まあ、ゴジラならあるかもしれませんですけどね……  
スマさん・ウオザキさん それはない、絶対ない

去って行く三人。

5-1

幕が開くと、学校帰りのエミとユミが下手からやってくる。

ユミ あのさ、三組のアカネが、駅前をうろうろしてる怪しげな二人連れを見掛けたって、聞いた？  
エミ 聞いた聞いた、派手なおぼんと地味なおっさんのコンビでしょ  
ユミ そうそう  
エミ きっと、地上げ屋よ  
ユミ え、地上げ屋？  
エミ そうよ  
ユミ なにを上げるの？

エミ ユミちゃん、ゆつくりなのは喋り方だけかと思ったら、頭の回転もゆつくりなのね

ユミ ほっといてちょうだい

エミ この商店街を地上げして、一大アミューズメント・パークにするんじゃない

ユミ へえ。でも、関西弁喋ってたらしいよ

エミ じゃあ、関西の地上げ屋なのよ

ユミ どうして、関西からわざわざ？

エミ きっと、地元の土建屋が、自分たちでやるとあとあと面倒だつてんで、助っ人を頼んだのよ

ユミ えー、平手造酒「ひらて・みき」みたーい

エミ あんたも、例えが古いわね

ユミ でも、オカマ・バーはいゝとして、タカシ君とこ、どうすんのかしら

エミ 場合によっちゃあ、あたしたちの出番かもね

ユミ どうすんのよ？

エミ 奴らが脅迫するところをテープに録音して、警察沙汰にするぞつて脅迫すんのよ

ユミ あたしたちも脅迫するわけ？

エミ いゝのよ、正義の脅迫なんだから

ところへ、店から出てくるシャンハイ・リル。

リル 相変わらず姦「かしまし」いわね、リトル・ピーナッツ

エミ 相変わらず暇そうね

ユミ よく生活できるわね

リル ふん、大人にやね、蓄えつてもんがあるんだよ

エミ このオンボロ店、あんたの持ち家？

リル 悪かったね、襤褸で

ユミ まだ来てない、地上げ屋？

リル あんな噂、信じてるのかい？ やっぱ、子供だねえ

エミ 失礼なオカマね

リル ニューハーフツ

ユミ 折角心配してやってんのにさ

ト、自分の店から出てくるカズコ。

カズコ 何を心配してるですつて……？

リル カズコさん、聞いてよ、このリトル・ピーナッツがね、例の地上げの噂が本当だつて云うのよ

カズコ でもね、何か、薬屋さんも写真館も、もしかすると本当かもつて云つてるのよ……

エミ ほら、ごらん

リル 本当なの？

カズコ 市議員がうろろうしてるんだつて、最近リル あの人、いつだつてうろろうしてたじゃない

カズコ 最近、頼「とみ」によ  
リル けど、こんなどこに何か建てたたってのも、妙な話よねえ……  
カズコ それが、ほら、どうもオリンピックがらみらしいのよ……  
リル 成る程ね……  
ユミ タカシ君の小母さん……  
ユミ あたしたち聞いたんです……  
ユミ 友だちが、怪しげな連中を見掛けたって……  
カズコ 怪しげな連中……？  
ユミ そうよ、ユミちゃん、こうしちや居らんないわ  
ユミ どうしたの……？  
ユミ 早く、奴らの立ち回り先を抑えて、盗聴器仕掛けなくっちゃ  
ユミ エミちゃん、テレビの見過ぎじゃないの……  
ユミ なに云ってんのよ。(カズコに) じゃ、小母さん、失礼しま  
す。(リルに) あばよ……！(上手に駆け去る)  
ユミ ちよっと待ってよお……(周章で、後を追う)  
リル ふん、コギヤルどもが、今にどっかの餌食になっちゃうんだから……  
カズコ リルさん、まあまあ……

ところへ、上手からやってくるタカシ・ケンイチ・シンジ。

ケンイチ 臭いよな……  
シンジ 臭いッス……(鼻をくんくんやっている)  
ケンイチ なにやってんだよ、違うよ

シンジ へ？  
ケンイチ オカヤの云ってた関西弁の二人組のことだよ  
シンジ あゝ……  
ケンイチ あの話じゃ、絶対、詐欺師だな  
シンジ 詐欺師ッスか……？  
ケンイチ おい、タカシ……  
タカシ (考え込んでいる)……  
ケンイチ タカシってば……  
タカシ 忘れられる……  
ケンイチ なに云ってんだよ、あいつら、絶対、詐欺師だって  
シンジ 証拠あるッスか？  
ケンイチ 証拠は……  
シンジ 証拠ないと、決めつけられないッス  
ケンイチ 判ってるよ、そんなこと  
カズコ あら、タカシ、お帰りなさい……  
タカシ たゞいま……(そのまゝ、店に引っ込んでしまう)  
リル タカシ君、どうかしたの……？  
カズコ さあ、いろいろある年頃だからね……  
ケンイチ あ、タカシ君の小母さん、ユウコさんは、ボクが守ってみせます  
から  
カズコ は……？  
リル 何だい、藪から棒に……  
ケンイチ 奴らはきつと地面師の一味に相違ありません

カズコ ジメンシ……？  
ケンイチ 権利書とかをでっち上げて、他人の土地を売り払ったりする詐欺師のことです  
シンジ (項突いて) 詐欺師ッス  
カズコ あゝ、例の地上げ屋のことね……  
ケンイチ 彼らの魔手からユウコさんを、否、このナガノ理髪店を守るべく、日夜腐心しているのです……  
シンジ 夜は寝てるッスよ……  
ケンイチ (シンジの頭を叩き) どうか、この辺のどこ、ユウコさんに宜しくお伝え下さい  
カズコ エミちゃんたちと云い、ケンイチ君たちと云い、ご苦労さんねえ……  
シンジ 姉ちゃんたちも、なんかやってるッスか？  
カズコ ついさつき来て、行っちゃったけど……  
リル 何か、盗聴するとか云ってたよ。(シンジに) あんた、姉ちゃんたち、止めた方がいゝんじゃないのかい……？  
ケンイチ そうか、おい、盗聴だよ、盗聴……  
カズコ・リル ……？  
シンジ 盗聴ッスか  
ケンイチ それで、奴らの化けの皮を剥ぐんだよ  
シンジ でも、どこでやるッスか、盗聴？  
ケンイチ 奴らを尾行すんだ  
シンジ 探偵みたいッスね

ケンイチ いゝか、こいつあ危険な仕事だ、遊び気分だと、怪我すんぞ  
リル 充分、遊んでると思うけどね……  
ケンイチ 行くぜッ  
シンジ おうッス

上手に駆け去るケンイチとシンジ。

リル 全く、可愛くないねえ、近頃のカキは……(店に引っ込む)  
カズコ ま、そこが可愛いんじゃないの……(店に引っ込む)

5-2

入れ替わりに、下手から、マダム・トアロードと鞆を下  
げたイクタスジがやってくる。

マダム・トアロード も一遍、おさらいしとこか  
イクタスジ はあ  
マダム・トアロード あたしは？  
イクタスジ キョウマチスジ興産社長のマダム・トアロード  
マダム・トアロード こゝに厄介になってる娘は？  
イクタスジ 社長の妹のお嫁に行った先のお義母「かあ」さんの甥の娘

マダム・トアロード ほな、行こか

ト、店から、お使いを頼まれたユウコが出てくる。

イクタスジ あのう、失礼ですが……

ユウコ (些「いさゝ」か身構えて) はい……?

イクタスジ スマ・ユウコさんで……?

ユウコ そうやけど……

イクタスジ 私、こういうもんで……(ト、名刺を差し出す)

ユウコ (受け取って) キョウマチスジ興産……?

マダム・トアロード あたくし、社長のマダム・トアロードと申します。お嬢さんが住んでらした街で、ビルを経営を……

ユウコ はあ……

マダム・トアロード これは、秘書兼運転手兼ボディーガード兼料理番のイクタスジです

イクタスジ 何か、仕事増えてまへんか

マダム・トアロード (無視して)あのとときに、お父様を亡くされたそうで、洵「まこと」にもって、その、何でしたが、まあ、あときは、あたくし

も会社も、それはそれは大変な事になりました、それでも、お陰様で、何とかこのように立ち直って、日々経済的・精神的復興に微力ながら協力

させて戴けるようになりまして、実は、折り入って、お嬢さんにお話が――

イクタスジ (ずっとこけている)

ユウコ なんですか……?

イクタスジ あの、お嬢さんが、前に住んではった家の土地、今は更地なん

ってまっしやる

ユウコ えゝ……

イクタスジ あれね、実は、ずばり、譲って戴きたいんですわ

ユウコ あの土地を……?

マダム・トアロード それが、実は――

ところへ、出てくるカズコ。

カズコ あ、ユウコちゃん、よかった、ついでにお醤油買ってきてほしいん

だけど……こちらは……?

マダム・トアロード あたくし、ユウコさんが以前お住まいになっ

てらした都市「まち」で、ビル業を営んでおりますキョウマチス

ジ興産社長、マダム・トアロードと申します(一礼)

カズコ はあ……(礼)

マダム・トアロード で、これは、秘書兼運転手兼ボディーガード兼料理番

兼掃除係のイクタスジです

イクタスジ また増えてまっせ

マダム・トアロード 実は、あたくし、こちらにご厄介になってるユウコさ

んの遠縁にあたる者でして……

ユウコ・カズコ えーッ

カズコ ユウコちゃん、知ってた……?

ユウコ (首を振って) 初耳……  
カズコ 失礼ですが、どういうご関係で……？  
イクタスジ あの、お嬢さんは、実は、社長の妹のお嫁に行った先のお義母  
「かあ」さんの甥の娘、なんですよ(得意満面)  
ユウコ・カズコ ……は？  
イクタスジ お嬢さんはね、社長の妹のお嫁に行った先のお義母「かあ」さ  
んの甥の娘、なんですよ  
カズコ ユウコちゃんは、社長さんの……  
イクタスジ え、  
カズコ お嫁に行った先の……  
イクタスジ 妹の、です  
カズコ 妹さんのお嫁に行った先の……  
イクタスジ お義母「かあ」さんの甥の娘、なんですよ  
カズコ お義母「かあ」さんの甥の娘、なんですよ……  
マダム・トアロード お判りになりました？  
カズコ 要するに……お宅の、なんなんですか……？  
イクタスジ 要するに、社長の妹のお嫁に行った先のお義母「かあ」さんの  
甥の娘、なんですって  
カズコ それは判ったんですけどね……  
イクタスジ ほな、何が判らんのですか？  
ユウコ 小母さん小母さん、要するに、お父さんの縁続きってことよ……  
マダム・トアロード 流石「さすが」あたしの遠縁、あたしに似て頭の回転  
が速いこと

カズコ ほんとうですか……？  
イクタスジ ホンマもホンマ、大ホンマ。何より、この姿形を見較べて下さ  
い  
マダム・トアロード (ポーズを取る)  
イクタスジ どころから見ても、栗二つ……  
カズコ ……それで、この子に、なんのご用でしょう……  
イクタスジ ずばり——  
カズコ 当てましょう……  
イクタスジ がっちり——  
カズコ 買いましヨウ……  
イクタスジ 奥さん、嘗めとつたら承知せんで  
マダム・トアロード (制して) まあまあ、愉快なお方であらうしや  
ること。ユウコちゃんも、さぞや楽しい毎日だったことでしょう、  
おっほっほ……  
ユウコ あたしの家の土地を譲ってくれて……  
カズコ え、もしや、噂の地上げ屋さん……？  
イクタスジ 何でっか、噂のって？  
カズコ いえ、別に……  
マダム・トアロード まあ、こういう仕事をしておりますと、よく誤解され  
るんではございますのよ  
カズコ はあ……  
マダム・トアロード ですが、ウチはちやあんとしたビル業ですので、ご安  
心下さい

イクタスジ 実は、当社のビル——云うても、今度のはマンションなんですけどね、そいつを建てる計画が、丁度、ユウコさんの住んでらした辺りにございましてね、その調査の途中で、ユウコさんのお住まいの土地が、亡くなられた御尊父の名義であることが判明したのですが、それがまあ、奇遇にも当社の社長の遠縁でいらしたんですわ

カズコ はあ……？

マダム・トアロード おまけに、更に調べてみましたところ、あの土地をご購入の際に、あたくしの亡父が遠縁のヨシミでお金を用立てさせて戴きまして、ところが、亡父も忙しさに取り紛れてお金をご返却願うのんを忘れておりましてねえ、はい……

カズコ 一寸待つてくださいよ

マダム・トアロード ハイハイ

カズコ それじゃあ、ユウコちゃんの家土地が、そちらさんのものだと……

イクタスジ いえいえ、土地は、お嬢さんのお父さんのものです

マダム・トアロード ですが、お金は払ろてはらへんのです

カズコ じゃあ……

マダム・トアロード 失礼ですが、お小さいときにお別れになったお母さんも、大変な目に遭われて、えらいご苦労なさってるようですし……

カズコ そんなことまで……

マダム・トアロード いえいえ、お気に触ったらお許しください。あたくしもね、遠縁に当たると知って、随分気になりましたね……

イクタスジ 社長、八方手を尽くして、お調べになったんでっせ、お嬢さん

の行方とか

マダム・トアロード そこで、こう申しては何ですが、これも何かの縁、微

力ながらご助力させて戴こうと思ひましてね、はい

カズコ と、仰有いますと……？

イクタスジ あの土地の購入資金は、実際のところ、社長のお金。そこで、あの土地をすんなり譲って戴きたい

マダム・トアロード ですが、それだけでは、遠縁に当たる方の難渋を見捨てることに相なります。ですから、相応の金額をご援助をさせて戴こうと……

カズコ お金を……？

マダム・トアロード はい

カズコ 失礼ですが、金額は……？

イクタスジ 当社もさほど裕福ではないので、これぐらいで……(ト、指を三本示す)

カズコ えーッ！ 五千億円！

ユウコ 小母さん……

イクタスジ 誰がそないに出すねんッ！ 三千万や三千万ッ。大体、指三本しか出してへんがな！

マダム・トアロード ほ、ほ、愉快な方だこと

イクタスジ お金やったら、安心してください。ちゃーんと、即金で用意してまっさかい(ト、鞆に詰めた札束を示してみせる)

マダム・トアロード 如何です？

カズコ 如何ですって、仰有られても……

イクタスジ なーに、手続きかて簡単でつせ。こゝにある委任状に捺印と署名さえしてもろたら、こつちで、ちゃんど全部済ませときま  
マダム・トアロード そうすれば、ユウコちゃんも、安心して、お母さんが迎えにくるのを待つてられますでしよ……？ あ、何なら、高校に通う資金もおまけしましよるか？ ね、イクタスジ……

イクタスジ はあ、三百万ほどなら、余分に持つてきてまっせ  
マダム・トアロード ユウコちゃん、どう……？

ユウコ そんな……  
イクタスジ くないです……？

カズコ 一寸待つてください、中学二年の女の子に、急に決断しろつて云つても、無理ですよ

マダム・トアロード そうでしょうそうでしょう。あたくしも、急には無理やと思います。また伺いますので、じっくりお考えを……

イクタスジ 決して、悪い話やおまへんで  
マダム・トアロード では

会釈して去るマダム・トアロードとイクタスジ。  
イ「たゝず」むユウコとカズコ。

カズコ ユウコちゃん……

ユウコ くないしよ……

カズコ うん……

ユウコ 小母ちゃん、あたし……

カズコ 落ち着いて……

いつの間にか店の扉から覗いているタカシ。然し、近寄りがたい雰囲気、その場で聞いている。

ユウコ あの場所、売れるもんなら売つてしまいたいて思つとつてん……

カズコ ……

ユウコ 忘れられるもんなら、忘れてしまいたい、つて……

カズコ そう……

ユウコ けど、あの場所あれへんようなら、もう、ほんまに、あの街とつながるもんなくなんねん……

カズコ ……

ユウコ そしたら、あたし、どっちの街からも、忘れられてしまふんかなあ……

カズコ ユウコちゃん……（ユウコを引き寄せて、抱き締める）

タカシ ……

幕が閉じる。

夜。

スマさん・ウオザキさん・シンカイチさんがやってくる。

ウオザキさん 何か、秋やねえ……

シンカイチさん どんどん、葉っぱが散ってますねえ……

スマさん シャンソンでも歌いましょうか……？

ウオザキさん いや、いらんけどね、別に……

シンカイチさん 潰れた我が家ね、柿の木があっただすわ……

スマさん ほお……

シンカイチさん 秋になると、よう実が生りましてねえ、渋柿ですけど……

ウオザキさん 我が家ねえ……

スマさん ウオザキさんとこ、どないしはりました、お家……？

ウオザキさん 復活しとるよ、何とか。市が道路広げるゆうて、土

地削られたけど……

スマさん シンカイチさんとこは……？

シンカイチさん ウチは借家でしたから、まあ、後は野となれ、ですわ……

ウオザキさん あんたとこはいな……？

スマさん ウチはねえ、まだ、一寸……

シンカイチさん 売ってまわはったら、いっそのこと……？

スマさん はあ……

シンカイチさん 身軽ですよ……

スマさん 海が見えましてね……

シンカイチさん ……

スマさん 一寸、気に入ったんですわ……

シンカイチさん 成る程ね……

スマさん まあ、どうせ、そのうち、海辺にビルとか建って、見えなくなっ

ちやうんでしょうがね……

ウオザキさん 心配せんかて、どつからでも見える海があるがな……

スマさん は……？

ウオザキさん (見上げる)

シンカイチさん (見上げて) 大きな海ですよねえ……

スマさん あゝ…… (見上げる)

ウオザキさん もう、秋やなあ、あつこに泳いでんがな、おつきなクジラ……

…

シンカイチさん え、クジラ……？

スマさん あゝ、ホンマですなえ……

シンカイチさん え、何処？ 何処？

暗転。

7

幕が開くと、下手からマダム・トアロードとイクタスジが現れる。

イクタスジ (下手の隅で立ち止まり) 社長、ほんまに、三百万、おまけで

付けたりまんのか？

マダム・トアロード えーのよ、えーのよ、三百万くらい。あの土地が三百万で手に這入るなんて、すてきな奥さん大賞もんよ

イクタスジ いっつも思うんでっけど、女子供年寄りっちゅうのんは、何であないに騙し易いんでっしやるなあ

マダム・トアロード 決まってるでしょ。あたしらのウデがえゝからよ

イクタスジ 白紙委任状やて、よう見たら判る筈でんになあ

マダム・トアロード よう見させんようにしてるでしようが

イクタスジ さいでした。けど、今回は、遠縁作戦でっしやる。やりまん

あ

マダム・トアロード ずっと遡「さかのぼ」ったら、誰かて、どっかで親戚になるわよ

イクタスジ 成る程、流石、社長や

マダム・トアロード ほな、もう一押し、行こか

イクタスジ へえ。(店の前まで行って、声を掛ける) えらいすん

まへん、キョウマチスジ興産のイクタスジです、お返事伺いに来ましたで

カズコ (店から現れ) はい……？

イクタスジ あの、お嬢さんは……？

カズコ (店の中へ向かって) ユウコちゃん……

ユウコ (店から出てくる) はい……

マダム・トアロード どない？ 心は決まった……？

ユウコ ……

カズコ ユウコちゃん……

イクタスジ 奥さんからも、お勧め下さいよ、えゝ話でっせ、これ……

マダム・トアロード さ、ユウコちゃん……？

ユウコ あの……

マダム・トアロード はい……？

ユウコ あたし……

マダム・トアロード 譲って戴けるのね……？

ユウコ (項突く) ……

ところへ、二階の窓から飛び降りてくるタカシ。

タカシ ダメだ、ユウコさん……！

イクタスジ 何や、この坊主

タカシ (ユウコに) 売っちゃダメだよ……！

ユウコ どうして……

タカシ だって……

イクタスジ おい、何か知らんけど、商売の邪魔せんとしてくれるか(ト、

タカシの方を小突く)

ところへ、上手から飛び込んでくるケンイチ・シンジ。

ケンイチ 待て待て待てッ！

シンジ 待て待て待てッス！

イクタスジ 何や何や、次から次へと……

マダム・トアロード まあ、元気のえゝちびっ子たちやこと  
ケンイチ ユウコさん、騙されちゃいけねえ！

シンジ そいつら、詐欺師ツス！  
イクタスジ 何云うてんねん

マダム・トアロード ちびっ子たちは、大人しう、ちびっこハウスで「みな  
しごのバラード」でも歌とてなさい

シンジ ケンちゃんケンちゃん、タイガーマスクツスよ

ケンイチ 五月蠅いッ！ そんなことよか、偉そうに云えんのも、今のうち  
だけだぞ

シンジ だけツス

イクタスジ せやから、何やねん？

ケンイチ こいつを聞いて、腰抜かすなよ。（シンジに）おい……

シンジ （ラジカセを出す）

ケンイチ オマエらの云うことが嘘っぱちだつてこと、みーんな、

このテープに録音されてんだい

マダム・トアロード （たじろいで）ギョギョツ

イクタスジ 社長、何か、ヤバそうでっせ……

ケンイチ これを聞けッ

ト、再生ボタンを押すと、大音量で流れ出るシンジの演歌。

ケンイチ （呆然）げ……

マダム・トアロード （高笑い）なーによ、これ？

イクタスジ これのどこが証拠やねん？ えッ？

ケンイチ （シンジに）オメー……！！

シンジ すまないツス。つい、出来心で……

ケンイチ いつ吹き込んだんだよ、一体……

マダム・トアロード ちゃんちゃらおかしいじゃないの、え、ちびっ子たち？

ケンイチ で、でも……

イクタスジ これ以上ガタガタ抜かすと、メーヨキソンで訴えんぞ

マダム・トアロード どうやら一件落着ね

ケンイチ けどなあ、オレたちが、ちゃんとその耳で聞いているんだからな！

シンジ 聞いているツス！

イクタスジ せやから、証拠見せてみんかい

シンジ ケンちゃん

ケンイチ なんだよ

シンジ 証拠見せろつて……

ケンイチ オメーが消しちまったんだろーがッ

イクタスジ （ユウコとカズコに）まあ、何かの勘違いでっしやる

ところへ、下手から飛び込んでくるエミとユミ。

ケンイチ シンジの姉ちゃんたち……！！

エミ 天知る、地知る、吾も知る、不二家ペンシルチョコレート

イクタスジ 何やねん、それ……

ユミ 壁に耳あり、障子にメアリー・スチュワート

イクタスジ ひつこいやっちゃな……

エミ あんたらの正体は、あたしらが見破った！

マダム・トアロード まあ、元気のえゝお嬢ちゃんらやこと。この街は元気のえゝちびっ子たちで一杯やねえ、ニッポンの将来も安泰やわ

ユミ あんたら、地元の土建屋に頼まれた、地上げ屋だね！

ケンイチ あゝ、また話をやゝこしくする……

シンジ それ、ぜんぜん違うツスよ……

エミ なに云ってんの、ちゃーんと証拠だつてあるんだから

ユミ エミちゃん、証拠つて、いつの間に……

エミ (小声で) ハッターよ、ハッター……

イクタスジ 阿呆ぬかせ、こつちはな、歴「れつき」とした地面師じゃ！ 田

舎の地上げ屋なんぞと一緒にすんな！

エミ ほーら、引ッ掛かった

マダム・トアロード (嘆息して、天を仰ぐ)

ケンイチ ユウコさん、オレの云ったとおりだったでしょ、ね、ね？

マダム・トアロード (イクタスジを張り倒して) このスカタンツ！ ベラ

ベラ、ベラベラ喋ってもてからに、ホンマ

イクタスジ すんません、社長、ついカツとなつてもうて……

ケンイチ こういうのを、諺でなんとかって云うんだよ……えーと、大男――

シンジ そのミニスカート、マワシかね……

ケンイチ それだ！

カズコ 総身に知恵が回りかね、でしょうが……

イクタスジ こうなりや、力尽くでも、委任状に判子つかせたらやないかい

……！

ケンイチ 危ねーよ、おい……

シンジ 危険ツス

ケンイチ まあまあ、皆さん、お平らにお平らに……

イクタスジ・リル (ケンイチに) そこを退きな……！

ケンイチ は、はい、直ちに……

リル フッフッフッフ……

イクタスジ 何や何や？

リル (妙な構えをしながら) 昔は、港街でも「上海帰りのリル」と云や、

一寸は名を知られたもんさ……

一同 おゝ！

イクタスジ えゝ度胸や、掛かってこんかい！

ユミ 強そうには見えないけど……

エミ 弱そうな奴を装った強い奴のつもりなんじゃない……

突然、イクタスジを攻撃するリル。だが、呆気なく突き倒されて、  
気を失う。

カズコ・ユウコ リルさん！

エミ 弱そうな奴を装った強い奴のつもりの弱い奴だったわね……

ユミ うん……

イクタスジ (ユウコに) お嬢さん、手荒な真似はしとないんやけど、私ら

も、遊びで、こないなとこまで来てんのとちやいまっさかい……  
ケンイチ ユウコさん、もう、こゝは、判子ついちやいましようよ、ね。な  
んなら、ボクが判子をお預かりして……

タカシ 待て！

カズコ タカシ……！

ケンイチ だから、タカシ、オマエも四月から中学なんだから、ちよつと大  
人になって、こゝは一つ、長いものには巻かれるということでき……

イクタスジ (ケンイチを押し退けて、タカシに) えゝ恰好したいんやっ  
たら、悪いこと云わんから、別の機会にしとけ

タカシ その土地は、ユウコさんの想い出の場所なんだ！

カズコ タカシ……

マダム・トアロード 十二、三で、何が想い出よ

タカシ 子供にだって、忘れたくないことはある……！

ユウコ タカシ君……

マダム・トアロード あのね、坊や、忘れたのうても、忘れてまう  
んが、人間の……

ケンイチ そうだよ、タカシ、ウチのお爺ちゃんなんか、もう、すっかり……

……

シンジ でも、ウチのお爺ちゃんは、昔のことの方をよく憶えてるツスよ

ユウコ タカシ君、もう、えゝねん……

ケンイチ そうそう、穩便に穩便に……

タカシ ダメだよ、オレだって、お父さんのこと……

マダム・トアロード まあ、憶えてるの、六つだったんでしょ、記憶力えゝ

のねえ

カズコ あなたの方、そんなことまで……

マダム・トアロード まあまあ、奥さん、交渉相手を研究するのは、ビジネ

スのイロハニホヘトですわ……

イクタスジ そんなに……

ユウコ そうや、忘れてしまっうねん……

タカシ そんな……！

ユウコ ほな、タカシ君、憶えてんの、お父さんのこと……！

一同 ……！！

タカシ それは……

ユウコ ほら、どんなに好きな人かって、そうなるんやんか……！ それや

ったら、どんなもん、残しといたかて……

タカシ 違うよ、大事なものは、帰る場所だよ、クジラが海に帰った

みたいに、ユウコさんにも、帰る場所が要るんじゃないか……！

ユウコ タカシ君……

マダム・トアロード まあ、あたしら放つといて、勝手に盛り上がんないで

くれる？

イクタスジ そやそや、ゴチャゴチャぬかしとると、いてまうぞ！

エミ いよいよ、あたしらの出番ね……

ユミ このシオジリ姉妹がお相手するわ……

イクタスジ フラワーシヨウの間違いやろ

エミ 関西人にしか判んないネタ使うんじゃないわよ！

ユミ そうよ、このレッツゴー長作！

イクタスジ 巫山戯「ふざけ」とんか、ワリヤ！  
シンジ あゝ、到頭、姉ちゃんたちが出てきたッス。このまゝじゃ、血の雨  
が降るッス……

ケンイチ おい、シンジ、何とかしろ……！

シンジ (煩悶) うーんうーん……

ケンイチ 行けッ、シンジ！

シンジ おっしやあッス……！

ト、突然、シンジ、マダム・トアロードの手から、鞆を引手繰ると、下手に駆け去る。

マダム・トアロード こらッ、泥棒ーッ！ (イクタスジに) 何ぼ

うっとしてんのよッ、早よ追っ掛けんかいッ！

イクタスジ おんどりやあッ！

喚「わめ」きながら、追い掛けて去る二人。

呆然と見送る一同。

ケンイチ (腕組みをして) うーん、決着が付いたとは云いがたいけど、ま

あ、良かった良かった……

一同 (冷たい視線で、ケンイチを見る)

ケンイチ は、皆さん、何か……？

エミ 莫迦な弟だけどさ、弟は弟だからねえ……

ユミ やっぱ、姉としての面子もあるしねえ……

ケンイチ はい……？

エミ ちよつと、顔貸してもらおうよ……

ケンイチ いや、昔っから、顔なんてのは、貸し借りの対象にはならない類

「たぐい」のものでして……

とか云ってるケンイチの両耳を一人ずつ掴むと、下手に連行して去るエミ・ユミ。

カズコ (溜め息ついて) ま、良しとしたら……

幕が閉じる。

8

幕の前に、ウオザキさん・シンカイチさん・スマさんがやってくる。三人とも、どこからか手に入れた新聞を何紙も持っている。

ウオザキさん いやあ、仰山記事出とんなあ……

スマさん 何々、十三日目で幕下優勝決定、旭鷲山、東幕下九枚目、大島部

屋、七戦全勝か……

ウオザキさん 何見とんねん

シンカイチさん あゝ、これ、モンゴル出身力士ね  
スマさん 来場所は関取でしょ  
シンカイチさん モンゴル初ね  
ウオザキさん おいおい  
スマさん 絶対、幕内まで行けますよね  
シンカイチさん 三役も行けるでしょ  
ウオザキさん ちやうがな、どこ見とんねん  
スマさん え、(新聞をめくり)あゝ、八時から「暴れん坊将軍VI」……  
シンカイチさん 「人情落語長屋」の巻……  
ウオザキさん ちやう云うとるやろッ！(第一面を指し)こっちやこっち！  
スマさん 「一八七一人の遺体、身元判明せず」  
シンカイチさん 「都会の孤独 浮き彫り」(朝日新聞、一九九五・  
一・二一、朝刊)  
ウオザキさん 四日目やもんなあ……  
シンカイチさん (別の新聞を見て)八月二十三日、鉄道網全線復  
旧……  
ウオザキさん 突貫工事やったんやろなあ……  
スマさん 十月二十五日、寅さん来たる……  
ウオザキさん もう、死んじゃったけどねえ……  
シンカイチさん 高速道路、全面開通……  
ウオザキさん 何で、そない周章で、高速道路をなおすんやろねえ……  
シンカイチさん そりゃ経済復興のためでしょ……  
ウオザキさん 三年は掛かる、云われとってんで……

スマさん 何事も、やれば出来るってことでしよう……  
ウオザキさん やっぱ、金の力やろ……  
シンカイチさん 儲からんことには、金出ませんからね……  
スマさん 出来てもやらんもんもあるってことですか……  
シンカイチさん 憎むべきは、儲け第一主義！  
ウオザキさん 何、急に力んでんねんな……  
スマさん それも、取って付けたように……  
シンカイチさん あれさえなけりや、子供の名前も……  
スマさん それ、会社のせいじゃないと思えますけどね  
ウオザキさん (別の新聞)震災で立ち退きやて……  
シンカイチさん 地主が震災で倒壊した借家を売却しちゃったって訳ですな  
スマさん 震災に乗じた地上げとかって、起こってへんのですかね  
え……

ウオザキさん おいおい、これ見てみいな  
スマさん 何ですか？  
ウオザキさん 「震災離婚」やで……  
シンカイチさん 「震災ん時にわたしをほって逃げた夫が信じられなくなっ  
た」って奴ですね  
ウオザキさん 旦那にかけてジジョーいうもんがあったかもしれへんがな  
スマさん こんな奴、箆笥がぶつかって、箆笥の方が怪我をするに違いない  
とか？  
シンカイチさん あなた、無茶苦茶仰有る……  
スマさん 「単身赴任の夫が避難所で知り合った女性と浮気」ってのもあり

ますよ

ウオザキさん あんたどこ、だいじよぶか？

スマさん ウチは、居ませんから……

シンカイチさん ウチは、既に信用されてませんから……

ウオザキさん・スマさん (納得) あゝ……

ウオザキさん (別の新聞で) 「『心のケア』復興政策に」 (朝日新聞、一

九九六・五・一七、朝刊) やて……

シンカイチさん 所謂「いわゆる」PTSDって奴ですね

ウオザキさん 何や、それ……？

スマさん こゝに書いてありますよ……。 「PTSD、Post Traumatic Stress

Disorderの訳語」……

シンカイチさん 訳語なんてありませんよ

スマさん 書いてあるんですよ

ウオザキさん 記事書いた人も、周章てゝはったんやろ。なにしろ、咄嗟の  
ことやったし……

シンカイチさん あれから一年以上経ったときの記事ですよ

スマさん 本文には書いてありますよ「心的外傷後ストレス傷害。括弧PTSD  
括弧閉じる、……大災害などで心的外傷(トラウマ)を負った人たちが、被災後しばらくして不眠や情緒不安定、悪夢といった症状に苦しむス  
トレス傷害だ」って……

シンカイチさん 大丈夫ですかね、我々……

ウオザキさん 自覚はないな

スマさん あなたは大丈夫ですよ、多分

ウオザキさん 何か、それって、莫迦にされてる気もすんねんけど……

スマさん いえいえ、とんでもない

シンカイチさん (別の新聞) 「親の被災死『自分のせい』 心の傷癒えず

罪悪感」(朝日新聞、一九九六・一〇・二四、朝刊)

スマさん 誰の所為「せい」でもないんですけどねえ……

シンカイチさん (別の新聞を見て) 「北へ南へ《学童疎開》」(朝日新聞、

一九九五・二・一七、別刷)……

ウオザキさん 妙に語呂のえゝ見出しやな

シンカイチさん (新聞見ながら) 被災して転校した子オて、二万五千人以

上も居るんですなあ……

ウオザキさん ほお、岐阜とか長野とかにも百人ぐらい疎開しとん

ねんな……

シンカイチさん (スマさんに) そう云や、お嬢さんは……？

スマさん 実は、今もねえ、別れた女房の昔の友達の所に厄介になつとんで

すよ……

ウオザキさん 友達の……？

スマさん えゝ、私ら、身寄りがないもんで……

シンカイチさん そうですか……

スマさん 早よう、元女房の奴が迎えに行けるようになればえゝんですけど

……

ウオザキさん・シンカイチさん ……

スマさん あいつも、今回のことで、何かと苦しいようで……  
シンカイチさん まだですか……

スマさん えゝ……

ウオザキさん 二年も経つちゆうのにねえ……

スマさん ほんまにねえ……

三人 ……

シンカイチさん …… (ブルツと震えて) おゝ、寒ぶ……

ウオザキさん 冬やからなあ……

スマさん 夏やったら、暑かったんですけどねえ……

ウオザキさん いや、そら、そやろ

シンカイチさん 焚き火しましょか……？

スマさん あ、いゝですなあ……

ウオザキさん けど、燃やすもん、この新聞しかあらへんで……

スマさん 青春と可燃ゴミは、火曜日に出してもうたし……

シンカイチさん 判り易いボケですな

ウオザキさん なんか痛々しいで

スマさん (辺りを見回し) 火いやったら、まだ、あちこちで燠「おき」が

燠「くすぶ」ってるんやけど……

シンカイチさん えゝんちゃいますか、この新聞……

ウオザキさん 折角の記録やねんけどなあ……

スマさん 記憶を風化させんために、つて奴ですか……

シンカイチさん よっしゃ、判りました

ウオザキさん なんや……？

シンカイチさん 燃えると言えば、この炎の画家ヴァン・ゴッホを…… (ト、紙袋から出してみせる)

ウオザキさん おい、えゝんか、それ、燃やして……

スマさん そうですよ……

シンカイチさん あ、これ？ まだ、沢山ありますから…… (ト、紙袋の中

を見せる)

ウオザキさん 沢山って、あんた、一体、何の仕事しとったんや……

シンカイチさん しかも、もう燃えてるから、マッチも要らない (焚き火の準備を始める)

スマさん でも、こいつにあたつてるうちに、耳、痛くなつてきちゃったり

して……ね？

ウオザキさん ね、つて云われたかて……

シンカイチさん このボケは判りにくい……

スマさん あの、どうせなら、あっちの風の来ないところでやりませ

んか、焚き火……？

ウオザキさん 今のはボケか……？

シンカイチさん ちやうでしよう……

スマさん ほな、持つてきますよ、これ…… (ト、新聞紙などを抱えて去る)

ウオザキさん ほな、行こか…… (後を追う)

シンカイチさん はいはい…… (去る)

幕が開くと、ユウコが二階の窓で、Paradisをロザさんでいる。学  
校帰りのタカシが上手からやってくる。

ユウコ お帰り……  
タカシ たゞいま……(店に這入る。が、直ぐに出てきて)お母さんは……?  
ユウコ 商店街の寄り合い……  
タカシ そうか……

ユウコ (Paradisをロザさんで)

タカシ 前から訊こうと思ってたんだけど……

ユウコ なに……?

タカシ その曲は……

ユウコ パラディスゆうひとの、「シチリア舞曲」いうクラシック音楽や……

……

タカシ どうして、歌うの……

ユウコ どうしてって、なんとなくやん……

タカシ 座頭鯨みたいに、恋の歌……?

ユウコ アホ。歌うたうんは、雄やんか……

タカシ 気に入ってるね、その曲……

ユウコ お父さんが好きで、よう聴いとってん……

タカシ お父さんが……

ユウコ けど、もともとは、お母さんが好きでよう聴いとった曲やってんて

……

タカシ ふうん……

ユウコ (再びロザさんみ出す)

タカシ あのさ……

ユウコ なに……?

タカシ もしもさ……

ユウコ なんやのん……?

タカシ もしもだよ、ユウコさんのお母さんが迎えに来たら、帰っちゃうよ

ね……

ユウコ ……そら、そうやわ……たぶん……

タカシ そしたらさ……

ユウコ ……

タカシ きつと、忘れちゃうよね、オレのことなんて……

ユウコ ……

タカシ ……

いつの間にか下手側にケンイチとシンジ、やゝ遅れてカズコが姿  
を現し、二人の遣り取りを聞いている。

ユウコ うん……!!

タカシ やっぱり……

ユウコ けど、忘れてしもたかて、もういっぺん、知り合いになったらえ、ねん……  
タカシ もういっぺん……？  
ユウコ どつかで、もういっぺん出会うたって、ぜったい、仲良うなれるはずやもん、あたしたち……  
タカシ え……  
ユウコ 大切なのは、顔とか名前とかやない……  
タカシ やっと、判ってん……  
ユウコ 大切なのは……  
タカシ 前に、話したことあるやろ、風、吹いてきて……  
ユウコ 風……？  
ユウコ なーんや、もう忘れてしもたんか……  
タカシ ごめん……  
ユウコ タカシ君……  
タカシ ……？  
ユウコ 絵の具、ある  
タカシ 絵の具……？  
ユウコ なんや、急に、絵、描きとなってん……  
タカシ ……  
ユウコ (Paradisを口ずさみ始める)  
タカシ ……うん！

ユウコ うん……  
タカシ オレ、学校から絵の道具、取ってくる……！  
ユウコ あ、画用紙……  
タカシ オレの部屋にある、探しといて……！  
ユウコ おっけー……  
タカシ (上手に駆け出そうとして、立ち止まり) ユウコさん……  
ユウコ (引っ込み掛けて) なに……？  
タカシ あの……  
ユウコ うん……  
タカシ (意を決して) いっしょに、学校、四月から……  
ユウコ ……  
タカシ ……  
ユウコ (睨って) ……えゝよ  
タカシ (笑って) ……寝坊、すんなよ  
ユウコ そっちこそ……  
タカシ それで、夏に……  
ユウコ 夏に……？  
タカシ 夏になったら……  
ユウコ ……  
タカシ ……  
ユウコ ……夏になったら、いっしょに泳ぐ……！  
タカシ うん……！  
ケンイチ (呆然と) ウラヤマシイ……

シンジ ウラヤマシイッス……  
ケンイチ シンジ……  
シンジ ケンちゃん……

抱き合っつて慰め合う二人。

カズコ (ケンイチとシンジの頭を叩いて) じゃ、あんたゝちは、あたしと  
一緒に泳ぐか?  
ケンイチ 誰と?  
カズコ あたしと  
ケンイチ げ……  
カズコ どう?(ウインク)  
ケンイチ え、遠慮します……  
シンジ こ、考慮しますッス……  
ケンイチ・カズコ えッ……  
シンジ (照れている) ……

幕が閉じる。

10

幕の前に、スマさん・ウオザキさん・シンカイチさんがやってく

る。

スマさん 矢つ張り行ったでしょ、旭鷲山……  
ウオザキさん あ……?  
スマさん ほら、幕内……  
ウオザキさん あゝ……  
シンカイチさん 三役も行きますよ、そのうち……  
スマさん そのうちね……  
ウオザキさん 将来のことは、判らへんもんなあ……  
スマさん まさか、旭道山が衆議院議員になっちゃうとはねえ……  
ウオザキさん あんた、相撲ネタばっかしやな……  
シンカイチさん 将来のこと、判るようになるんですかね、私ら……  
……

ウオザキさん さあ……  
スマさん だつて、こゝつて、四次元空間みたいなもんでしょ……  
シンカイチさん 四次元……?  
スマさん ほら、時間が空間みたいに見渡せるんですよ……  
ウオザキさん あゝ、それで、あっちの方からこっちの方へ来たゞけで、も  
う二年も経つとんか……  
シンカイチさん 流れとらへんのですね、時間……  
スマさん 永遠の今、ですわ……  
ウオザキさん 言葉は恰好えゝけどなあ……  
シンカイチさん (新聞を出して読む) 死者六千四百二十五名、行方不明二

名、負傷者四万三千七百七十二名、家屋等被害四十八万八千二百二十二棟  
……（朝日新聞、一九九六年十二月二十七日朝刊より）

スマさん よう考えたら、新聞なんて残しとく必要、あれへんのですね……

（新聞の束を棄てる）

ウオザキさん そやな……。私ら、いつかて、あのときに戻れるんやもんな  
……（同じく棄てる）

シンカイチさん 決して、何ごとも、忘れられへんのですね、私ら……

スマさん え、ことなんでしょうかねえ、それって……

ウオザキさん さあ……

スマさん 忘れたかて、誰も咎めへんことかてあるんですけどねえ……

シンカイチさん 自分の所為やったとか、ね……

ウオザキさん ま、受験生やったら、羨ましがるやろけどなあ、記

憶力……

スマさん 何にもしてやれませぬね、残った人たちにや……

ウオザキさん さあ、そうでもないんとちやうか……

スマさん は……？

ウオザキさん ほら……（ト、鞆の中から、ラムネの空き壘を取り出す）

シンカイチさん お、そういえば……（鞆の中から、封筒を取り出す）

スマさん あ、なるほど……（ト、財布の中から、娘の写真を取り出す）

写真を見ながら）想い出になるんじや、ないんですよね……

ウオザキさん ほな、こゝらで……

ウオザキさん、ラムネ壘を足下に置く。スマさんとシンカイチさ

んもそれに倣う。

スマさん あ……

シンカイチさん は……？

スマさん 風が出てきましたよ……

ウオザキさん 始まりの、風かいな……

シンカイチさん はあ、始まるんですか……

スマさん そう、始まるんですよ……

ウオザキさん さて、あっちからこっちへ二年間分の移動も、これでお仕舞

いや……

スマさん 行きますか……

ウオザキさん （項突いて）行こか……

シンカイチさん こゝで、動かんとじつとじつといたら、別の芝居や

ねんけどねえ……

ウオザキさん 何、ごちゃごちゃ云うとんねんな

スマさん あ、来ましたよ……

シンカイチさん 私家専用の列車……

ウオザキさん 渥美清、乗ってへんか？

スマさん とっくに行っちゃったでしょ、あの人は

ウオザキさん ほな、蔵間竜也は？

シンカイチさん もっと前でしょうが、あの人は

ウオザキさん 金子信雄？

スマさん 更に前……

シンカイチさん 憶えとらへんもんですよね、結構  
ウオザキさん 何や、満員やがな……  
スマさん あの世へ行くときまで通勤地獄とは……  
シンカイチさん どっかで、大事故でもあったんちやいますか……？  
スマさん 新聞にや、載ってませんでしたかね……  
ウオザキさん しゃあないなあ……  
スマさん さ、行きましょう……  
ウオザキさん 押したらアカンで……  
スマさん 邪魔とちやいますか、荷物……  
シンカイチさん これはアカン。これは置いてかれへん……  
ウオザキさん あんた煩惱だらけやな……  
スマさん 何か聞こえますね……  
シンカイチさん 讚美歌ですかね……？  
ウオザキさん 銀河鉄道やあるまいし……  
シンカイチさん 銀河通勤鉄道の夜……  
ウオザキさん 厭やなあ、それ……  
スマさん どうせなら、パラダイスの「シチリア舞曲」がええですよ、ね……  
……  
シンカイチさん いや、ね、って云われても……  
スマさん 実は、別れた女房の好きだった曲でして……  
ウオザキさん あんた、意外と未練がましいなあ……

杯「など」と云いながら去って行く三人。

11

幕が開く。

二階の窓から、タカシがああParadisをロザさみつゝ、ぼんやりと  
外を眺めている。  
店から、カズコが出てくる。

カズコ タカシ、一寸お使い行って来て……！  
タカシ ……（ロザさんでいる）  
カズコ あらあら、すっかり、フヌケになっちゃって……  
タカシ ……（ロザさんでいる）  
カズコ まあ、あたしだって驚いたけどさ、ユウコちゃん引き取れ  
るようになったからって、突然電話してきたかと思つたら、彼女、いきな  
りこっち来ちゃうんだもんね……  
タカシ ……（ロザさんでいる）  
カズコ 喜んであげなさいよ、折角、ユウコちゃんがお母さんと一緒に暮ら  
せるようになったんだから……  
タカシ 約束したのに……  
カズコ 仕方ないでしょ、ユウコちゃんだって、向こう、帰りがってたん  
だし……

タカシ こつちで中学出てからでもよかったのに……

カズコ 向こうの高校行くんだったら、ちゃんと向こうで勉強しなきゃ……

タカシ ……（再びParadisを口ずさみ始める）

カズコ いつまでも拗ねてんじゃないわよ……

タカシ ……（口ずさみ続ける）

カズコ しっかりしなさい、来月から中学生でしょ！

タカシ 判ったよ……

カズコ 頼んだからね……！（店に戻る）

ところへ上手からやってくるケンイチとシンジ。

ケンイチ （慟哭） どうして、どうして行っちゃったんだよ、ユウ

コさん……

シンジ ケンちゃんケンちゃん、しっかりするツス、もう一週間も

経ってるツス……

ケンイチ オメー、悲しくねーのかよッ

シンジ 悲しいツス……

ケンイチ なら、もっと悲しめよッ

シンジ でもでも……

ケンイチ （二階のタカシに眼を止め）おゝタカシ、オレの気持ちを判って

くれるのはキミだけだ。共に嘆こうではないか……（泣く）

シンジ ケンちゃん……

ケンイチ オメーも泣けよッ

シンジ でも、オレ、ユウコさんから、見送りるとき、貰ったもん、あるッ

スー

ケンイチ ナニツ？ オメー、抜け駆けしやがったなッ！

シンジ だって、ケンちゃんもタカシも、ユウコさんの前で泣くのイヤだつ

て、ホームまで来なかつたツス……

ケンイチ なに貰ったんだよッ？

シンジ デンゴンツス

ケンイチ 伝言って、オマエへの伝言か？

シンジ オレのデンゴンツス

ケンイチ それじゃ、オマエの言葉になっちまうじゃねーか

シンジ 言葉はユウコさんのツス

ケンイチ 一体、ユウコさん、なんてったんだよ？

シンジ 「『遠い海のクジラ』で、伝えといて」って云ったツス

ケンイチ 伝えといてって、誰に？

シンジ 知らないツス

ケンイチ オメー、それじゃ、伝言になんねーじゃねーかッ

シンジ でも、オレに云ってくれたツス、デンゴンって……

ケンイチ だから、伝言てのは、オマエが受け取って、誰かに渡すんだよッ

シンジ 習ったツスか……？

ケンイチ ジョーシキだよ、ジョーシキ！

シンジ じゃあ、オレへのプレゼントトじゃなかったツスね……（悲嘆）

ケンイチ 決まっただらろッ！ あゝ、「遠い海のクジラ」……判らん……

オレへの伝言じゃないのか……  
シンジ じゃあ、タカシに渡すッス……  
ケンイチ おい、こら、待って……  
シンジ タカシ、ちよつと聞くッス  
タカシ なんだよ……  
シンジ ユウコさんの言葉を渡すッス  
タカシ ユウコさんの……？  
シンジ 「遠い海のクジラ」ッス。判るッスか？  
タカシ 「遠い海のクジラ」……？（考え込む）  
シンジ ケンちゃん、喜ぶッス、あいつも判んないみたいッス  
ケンイチ じゃあ、誰への伝言なんだよ  
シンジ オレでも、ケンちゃんでも、タカシにでもないとする……  
……あ、姉ちゃんたちッスよ  
ケンイチ それはないって……  
シンジ だとすると、早く渡さないと、また、ぶん殴られるッス……  
……  
ケンイチ おいおい……  
シンジ オレ、帰るッスー！（下手に駆け去る）  
ケンイチ おい、待ってば……！（後を追って去る）

考え込むタカシ。  
再び店から出てくるカズコ。

カズコ タカシ、何してんのよ、早く行ってよ……！  
タカシ 判ったってば……

タカシは Paradis を口ずさみながら、ぼんやりと店の前に出てきて、  
伸びをする。  
タカシの手に、買い物リスト渡して、店に引っ込むカズコ。  
ト、店の端に落ちている、写真とラムネ壺と便箋に眼を止める。

タカシ ……？

近づいて写真を拾い上げ、ハッとする。

タカシ たとえ、忘れても……

写真をポケットに入れ、便箋を拾い上げる。便箋を凝「じ」っと  
見る。  
風。  
タカシ、便箋を風に翳「かざ」す。

タカシ 大切なのは……

店の前に立つ。

ラムネ壘を唇に当て、遙か、あの街を想う。  
大きく息を吸い込む。

タカシ (静かに、然しきつぱりと) 風よ、吹け……!

ラムネ壘に息を送り込むタカシ。壘、低い唸り声を上げる。  
風が立つ。

タカシの手にした便箋、風に舞って、彼方へ飛ぶ。  
壘の音、聴「やが」て鯨の声となる。

途端に、理髪店の正面が崩れ落ち、額縁となった店の向こうにひ  
ときわ青く海が広がる。

タカシ、口元から壘を離すと、ゆっくりと壘の口を眼に  
当て、彼方を見据える。

青い海遠く、一頭の鯨が跳躍する。

タカシ、ラムネの壘の彼方に眼を凝らしつゝ、全身に風  
を受けて、ユウコとの新たな出会いを感じているのかも知れない  
……。

—幕—

#### 【参考文献】

朝日新聞アエラ発行室編(1995)『大震災一〇〇人の瞬間』ASAHI NEWS SHOP、朝日新聞社

朝日新聞社編(1995)『中学生大震災作文集』ASAHI NEWS SHOP、朝日新聞社

あしなが育英会編(1996)『黒い虹——阪神大震災遺児たちの一年』廣済堂出版

奥野安彦(写真)・土方正志(文)(1995)『瓦礫の風貌——阪神淡路大震災1995——』

リトル・モア

鹿島和夫編(1995)『大地震になんかまげへん——2年4組 神戸っ子の記録』学習研究社

かつまかずえ(1995)『まっすぐに西へ』汐文社

河野博臣(1996)『こころの傷と癒しのあり方』『こころの科学』65、日本評論社

岸本進一(1995)『雨の日は二人——阪神大震災を生きた一人の少女——』汐文社

神戸市立中学校「阪神・淡路大震災記録作文集」編集委員会編(1995)『地震なんかには負けない 神戸市立中学校「阪神・淡路大震災記録作文集」』二期出版

神戸新聞総合出版センター編『航空写真集 阪神・淡路大震災——激震直後5日

間の記録——』神戸新聞総合出版センター

酒井道雄編(1995)『神戸発 阪神大震災以後』岩波新書・新赤三九七、岩波書店

清水将之(1996)『一年という時の流れ』『こころの科学』65、日本評論社

城仁士・杉万俊夫・渥美公秀・小花和尚子編(1996)『心理学者がみた阪神大震災——心の

ケアとボランティア』ナカニシヤ出版

宝島編集部(1993)『これがパクリだー』別冊宝島186、宝島社

林春男(1996)『心的ダメージのメカニズムとその対応』『こころの科学』65、日本評論社

人見一彦(1996)『阪神大震災のメンタルヘルス——子どものケアを中心に——』金原出版

宮本貢編(1995)『1995-01-17-05-46——阪神大震災再現』ASAHI NEWS SHOP、朝日新聞社

村山司・笠松不二男(1996)『ここまでわかったイルカとクジラ』ブルーバックス、講談社  
ユズキカズ(1990)『水街』文華ロミックス317、日本文華社  
——(1993)『マンラジャ日和』カワデ・パーソナル・ロミックス36、河出書房新  
社

吉福伸逸 (1993) 「郷愁の海の鯨たち」『Imago』48、青土社

Leatherwood, S. & Reeves, R.R.(1996)『クジラ・イルカハンドブック』[吉岡・光明・天羽]  
平凡社

兵庫県立芦屋高校ホームページ (1996) <http://www.sany.net.or.jp/ken-ashi/index.html>

*Je dédie cette pièce à toutes les victimes du grand désastre sismique de  
Hanshin-Awaji.*